

授業名	教育原理 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Education			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	浅田 瞳			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えたフレーベルおよびモンテッソーリの思想を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をともに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。							
学習成果到達目標	1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる 2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業に対する興味・関心	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『やさしい教育原理』(新版補訂版)、田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著							
参考書	適宜指示する。							
留意事項	主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うために適宜、指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって講義に臨んでもらいたい。							
オフィスアワー	第1回目の授業にて告知。							

授 業 名		教育原理 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	イントロダクション	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) 筆記用具	
第2回	教育とは何か	(内 容) 教育とは何かについて、その概念と性格について考察する。 (必要な準備) テキストp.1-11をよく読んでおくこと。	
第3回	学ぶことと教えること	(内 容) 「学び」と「教え」について考察する。 (必要な準備) テキストp.12-26をよく読んでおくこと。	
第4回	教育・教化と形成	(内 容) 教育と教化と形成の違いについて考察する。 (必要な準備) テキストp.27-37をよく読んでおくこと。	
第5回	学校とは何か	(内 容) なぜ学校が登場したのかについて解説する。 (必要な準備) テキストp.39-47をよく読んでおくこと。	
第6回	近代学校の特徴	(内 容) なぜすべての子どもが学校に通うようになったのかについて解説する。 (必要な準備) テキストp.48-55をよく読んでおくこと。	
第7回	日本の教育の歩み	(内 容) 日本の教育の変遷について概説する。 (必要な準備) テキストp.68-86をよく読んでおくこと。	
第8回	身体の発達と道徳	(内 容) 教育と発達に関する理論について概説する。 (必要な準備) テキストp.99-110をよく読んでおくこと。	
第9回	教育における言葉と文化	(内 容) パーンシュタインの言語コード理論をもとに保育に必要な「ことばかけ」が子どもにどのような影響を与えているのかについて理解する。 (必要な準備) テキストp.111-115をよく読んでおくこと。	
第10回	教育評価を考える	(内 容) 評価の理論について概説する。 (必要な準備) テキストp.133-149をよく読んでおくこと。	
第11回	理論と実践のつながりを考える	(内 容) 保育の五領域や総合的な学流の時間について概観し、理論と実践のつながりについて理解する。 (必要な準備) テキストp.159-173をよく読んでおくこと。	
第12回	教師の仕事	(内 容) 教師の社会的意義について考える。 (必要な準備) テキストp.178-193をよく読んでおくこと。	
第13回	青少年と教育との関係	(内 容) 若者が教育とどのようなつながりがあるのか、理解する。 (必要な準備) テキストp.204-217をよく読んでおくこと。	
第14回	教育の権利について考える	(内 容) 知識基盤社会における子どもの権利について考える。 (必要な準備) テキストp.233-248をよく読んでおくこと。	
第15回	教育改革の動向とまとめ	(内 容) 現代の教育改革がどのように進んでいるのか、総括を行う。 (必要な準備) これまでの授業の振り返り。	

授 業 名	保育原理 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Principles of Child Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj		
授業の概要	<p>人格形成の基礎が培われる幼児期の保育の重要性を認識し、保育の基礎的知識を習得する。保育の意義、目的を学び保育者の役割を理解する。保育所、幼稚園、認定こども園における目標、目的、内容、方法、計画について学ぶ。保育の基本から専門的知識までを習得し保育を通して社会の一員としての役割を果たせるようになる。保育の専門家として知識と感性を身につけることができるように実践的な内容も組み入れて学ぶ。</p>						
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育の本質や目的、保育制度、保育の歴史の変遷を学び保育の基本を理解する。 2) 保育内容と方法を学び保育計画の必要性を理解する。 3) 保育専門職として確かな知識持ち子どもの発達過程に応じた支援ができる保育者としての社会的責任を果たせるようになる。</p>						
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『保育原理』谷田貝公昭編(一藝社)・『新版 保育用語辞典』(一藝社)						
参 考 書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省(フレーベル館)						
留 意 事 項	講義を中心とするが、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる。プリントは事前事後に熟読し、予習復習も積極的に行うこと。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください						

授 業 名		保育原理 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 講義の目的や授業の進め方を理解する。到達目標について理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。テキスト、ノートを準備する。	
第2回	保育の意義 1 保育の概念・理念と制度	(内 容) 保育とは、子どもとは、保育の基本的用語、基本的な法律について理解する。保育所、幼稚園、認定こども園の保育制度を理解し、共通点と相違点を理解する。 (必要な準備) 保育用語辞典を持って来る。テキスト第1章を読んでまとめておく(60分)	
第3回	保育の意義 2 子どもの最善の利益・社会的役割	(内 容) 子どもの最善の利益と保護者との協働、保育者の役割を理解する。 (必要な準備) テキスト第3章読んでまとめておく(60分)	
第4回	保育の基本 1	(内 容) 保育の原理を理解し、養護と教育の一体性について理解する。 (必要な準備) テキスト第1章を再度読んでおく(30分) 保育所保育指針を持って来る	
第5回	保育の基本 2 環境を通して行う保育	(内 容) 環境、環境構成、環境整備について目的、意味を理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでまとめておく(60分)、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む。	
第6回	発達に応じた保育 1 (3歳未満児)	(内 容) 0歳から3歳の心身の発達や情緒的安定、社会性の育ちについて学び適切な発達援助の方法を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第4章を読んでおく(30分)、保育所保育指針を持って来る。	
第7回	発達に応じた保育 2 (3歳以上児)	(内 容) 3歳から6歳の運動発達、言葉や社会性の発達を学び思考力や自立心が身につくような発達援助を理解する。 (必要な準備) テキスト第4章を読んでおく(30分)、保育所保育指針を持って来る。	
第8回	保育の視点 子ども理解	(内 容) ビデオを視聴し、保育の基本を理解する。子どもとともに生活することについて理解する (必要な準備) 保育用語辞典を持って来る	
第9回	子どもの生活と遊び	(内 容) 子ども理解、発達過程、遊びとの関連はわかり、遊びを通して保育することの重要性や遊びの意義を理解する。 (必要な準備) テキスト第10章を読んでおく(60分)、保育用語辞典を持って来る	
第10回	保育の思想と歴史の変遷 1	(内 容) 諸外国の保育思想と歴史を知る (必要な準備) テキスト第14章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持って来る	
第11回	保育の思想と歴史の変遷 2	(内 容) 日本の保育思想と歴史を知る (必要な準備) テキスト第13章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持って来る	
第12回	保育計画と評価	(内 容) 保育計画と保育実践との関係を理解する。PDCAの意味を理解する。 (必要な準備) テキスト第12章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典を持って来る	
第13回	保育の現状と課題	(内 容) 小1プロブレムの問題とそれを予防する方策を学び、保幼小の連携について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第15章を読んでまとめておく(60分)、保育用語辞典をもってくる	
第14回	保育者の専門性	(内 容) 保育の専門性を生かした保護者支援、職員間の連携、倫理観について理解を深める。 (必要な準備) テキスト第7章を読んでまとめておく(60分)	
第15回	自らの学びを振り返り、今後に繋がる課題を把握する	(内 容) 専門職としての保育者の質の向上を目標として自らの課題を明らかにする (必要な準備) これまでの授業を振り返る(30分)	

授業名	保育原理 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Child Care			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	鈴木 えり子			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	保育原理 を踏まえ保育の意義や目的が保育内容や保育方法、保育形態などどのように関連するのかを理解し、年齢や発達過程に応じた保育計画（指導案）が立案できるようになる。							
学習成果到達目標	1) 保育の歴史、思想、諸制度について理解できる。 2) 保育計画が作成でき、保育方法や評価について理解できる。 3) 保育者の専門性について理解できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	春学期のテキストを継続して使用します。(『保育原理』谷田貝公昭編・『新版 保育用語辞典』)							
参考書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省(フレーベル館)							
留意事項								
オフィスアワー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		保育原理 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 講義の進め方を理解し学習計画をたてる (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	保育(教育)の目標・目的	(内 容) 保育所、幼稚園、認定子ども園の目的、目標について再確認する。 (必要な準備) 保育原理 の内容、教科書第1章を読んでおく。
第3回	保育の歴史 1	(内 容) 諸外国の思想について再確認する(春学期の振り返り) (必要な準備) テキスト第13章、保育用語辞典を読んでおく
第4回	保育の歴史 2	(内 容) 日本の保育思想について再確認する(春学期の振り返り) (必要な準備) テキスト第14章、保育用語辞典を読んでおく
第5回	保育の特性	(内 容) 養護とは、教育とは、養護と教育の一体性とは、について正確に説明できるようになる (必要な準備) 保育用語辞典を読んでおく(10分)
第6回	保育計画 1	(内 容) 保育実践のビデオを視聴し、保育活動のねらい、内容、保育計画(指導計画)について理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)
第7回	保育計画 2	(内 容) 保育計画の意義、保育課程(教育課程)と指導計画の関係について理解する (必要な準備) テキスト第12章を読んでおく(30分)
第8回	保育計画 3	(内 容) 指導計画案の作成の実際について学ぶ(乳幼児の活動と環境構成) (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)
第9回	保育計画 4	(内 容) 指導計画案の作成の実際について学ぶ(保育者の援助の考え方) (必要な準備) 指導案をもって来る、配布プリントを読んでおく(10分)
第10回	保育計画 5	(内 容) ビデオを視聴して指導計画を実際に書く (必要な準備) 指導案の形式を書いてくる(10分)、定規を持って来る
第11回	保育計画 6 グループワーク	(内 容) グループで指導計画を立案し完成させる (必要な準備) 保育活動を考えて指導計画を作成してみる(60分)
第12回	保育計画 7 グループワーク	(内 容) グループで完成させた指導計画を発表する (必要な準備) 指導計画を完成させてもってくる(60分)
第13回	保育実践	(内 容) 保育実践について学ぶ (必要な準備) 筆記用具、折り紙、はさみ、新聞紙をもって来る
第14回	保育者の専門性	(内 容) 保育者の専門性について具体的に理解する (必要な準備) テキスト第7章を読んでおく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 秋学期のまとめ (必要な準備) ノート、テキストを読み返しわからない点を明確にしておく(30分)

授業名	保育の心理学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care Psychology			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	発達心理学の基礎知識を習得し、その知識を用いて子ども理解を深めていく。また、心理学の具体的な話題や幼児教育・保育現場の事例を紹介し、発達過程と保育実践を関連づけながら講義をすすめる。							
学習成果到達目標	1) 子どもの発達に関する心理学の基礎知識を習得することができる。 2) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめる、発達過程と保育実践を関連づけて理解することができる。 3) 乳幼児期の経験の重要性を認識し、主体的に学ぶ態度を身につけることができる。							
評価方法	定期試験 (75 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (25 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	授業は配布プリントを使ってすすめる。							
参考書	授業中に随時紹介する。							
留意事項	復習をしっかり行い、基本的な心理用語や理論を覚えること。							
オフィス アワー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		保育の心理学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 心理学とは何か、保育と心理学の関係について学ぶ。 (必要な準備) 自分自身の幼少期の保育経験や子どもとかわった経験について思い出す。(20分)	
第2回	保育における発達心理学の意義と役割	(内 容) 子ども理解のために発達心理学の知識が必要であることを知る。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第3回	「発達」とは何か1 発達段階と発達課題	(内 容) 発達段階、発達課題、遺伝と環境の影響について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第4回	「発達」とは何か2 発達のしくみ	(内 容) 発達のしくみ、初期経験の重要性、発達と保育内容について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第5回	身体機能と運動機能の発達	(内 容) 身体機能・運動機能の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第6回	情緒と自我の発達	(内 容) 情緒と自我の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第7回	社会性の発達	(内 容) 社会性の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第8回	知覚と認知の発達	(内 容) 知覚と認知の発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第9回	中間まとめ	(内 容) 授業の内容を振り返ってまとめる。 (必要な準備) 第8回までの授業の復習をしておく。(60分)	
第10回	言葉の発達1 コミュニケーションと言葉	(内 容) 言葉の発達の土台となる力や特徴について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第11回	言葉の発達2 思考と言葉	(内 容) 思考のための言葉や読み書きの発達について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第12回	遊びの発達	(内 容) 遊びの発達の特徴や理論について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第13回	発達障がい理解	(内 容) 発達障がいや発達検査について基礎的な内容を知る。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第14回	発達に応じた援助	(内 容) 保育事例より、子どもの発達や心身の状態をとらえて援助を考える。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第15回	児童期・青年期の発達	(内 容) 児童期・青年期の発達の特徴と発達課題について学ぶ。 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	

授 業 名	教育心理学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Educational Psychology			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育2ya～yf・yg～yl			
授業の概要	乳幼児期は、遊びや生活体験を通して、学ぶ喜びや楽しさを経験し、学ぶ態度の基礎を育む時期である。本授業では、学びに関する心理学の知識を習得し、教育の方法を理解し、保育実践に活かせる力を身につける。講義が中心ではあるが、保育・教育現場の事例や学生の実習体験のエピソードや視聴覚教材などを随時取り入れながら、具体的に学んでいく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 学びに関する心理学の知識を習得し、教育の方法を理解することができる。 2) 教育心理学の知識を用いて子ども理解を深め、子どもに合った指導方法を考えることができる。 3) 保育者は継続して研修をする必要があることを認識し、主体的に学ぶ態度を身につけることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	授業は配布資料を使ってすすめる。							
参 考 書	授業中に随時紹介する。							
留 意 事 項	小テストや課題レポートを随時実施する。主体的に学びを積み重ねてほしい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		教育心理学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	保育と教育心理学	(内 容) 教育心理学の目的 発達と学びのかかわり 保育者の教育観 (必要な準備) 保育の心理学 ・ の復習をしておく。(60分)	
第2回	学びにかかわるこころの働き1 学習のしくみ	(内 容) 学習の定義 成熟と学習 条件づけ学習 観察学習 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第3回	学びにかかわるこころの働き2 学習の意欲	(内 容) 動機づけの定義 内発的動機づけ (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第4回	学びにかかわるこころの働き3 内発的動機づけ	(内 容) 知的好奇心 達成動機 コンピテンス動機づけ 自己決定感 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第5回	学びにかかわるこころの働き4 学ぶ楽しさ	(内 容) 原因帰属 学習性無力感 幼児期の学びの特徴 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第6回	学びにかかわるこころの働き5 記憶のしくみ	(内 容) 記憶の過程 長期記憶と短期記憶 忘却 記憶能力の発達 (必要な準備) 第1回から第5回の内容をまとめておく。(90分)	
第7回	学びにかかわるこころの働き6 思考の発達	(内 容) 思考とは 認知・思考の発達 心の理論 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第8回	保育者・教員の倫理観	(内 容) 保育場面における倫理的な判断 保育者の職業倫理 (必要な準備) 第6・7回の内容をまとめておく。(60分)	
第9回	中間まとめ	(内 容) 実習事例を通してレポートを作成する。 (必要な準備) テーマにそって実習事例を考えてくる。(60分)	
第10回	幼児期における文字の学習・数の学習	(内 容) 遊びや生活の中で獲得する読み書き・数概念 (必要な準備) 復習プリントの記入(60分)	
第11回	学びの支援1 指導法	(内 容) プログラム学習 発見学習 意味受容学習 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第12回	学びの支援2 保育のねらいと環境設定	(内 容) 適性処遇交互作用 発達の最近接領域 T T 縦割り保育 グループ編成の方法 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第13回	学びの支援3 学ぶこころを育てる人間関係	(内 容) 親子関係と意欲 学ぶこころを育てる保育者のかかわり (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	
第14回	発達とこころの問題への支援1 保育カウンセラーとカウンセリングマインド	(内 容) 共感と傾聴の態度 カウンセリングマインド 保育カウンセラーの役割と実践 (必要な準備) 第11回から第13回の内容をまとめておく。(60分)	
第15回	発達とこころの問題への支援2 気になる子ども・発達障がいの子どもの支援	(内 容) 個別の支援が必要な子どもの理解とチーム援助 (必要な準備) 授業の復習をしておく。(30分)	

授 業 名	総合演習 A			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	少子高齢化、情報化、国際化の進む現代において、幼児と自然や人とのかかわりは様変わりし、子ども自身の遊びや幼児の人格も変化している。家庭、地域、幼稚園・保育園に問われる子どもの育ちについて調べたり遊びの教材研究をしたりし、発表・討議・分析を通じ、幼児教育についての理解を深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	演習形式で、直接体験を学生自身が自ら計画・実践し、グループ研究を土台に、積極的に発言、意見交換し、各自が課題意識をもちながらすすめる。日頃より、幼児教育及び乳幼児と環境との関連について関心をもつことが望ましい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業にて告知。							

授 業 名		総合演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	はじめに 自己紹介 演習の目標と方法	(内 容) 演習の目標と方法について話をする。 (必要な準備) 筆記用具	
第2回	課題についての問題意識の発見と計画	(内 容) 目標と方法について話し合い課題についての問題意識の発見を促す。 (必要な準備) 新聞記事等を切り抜いて持参すること	
第3回	子どもの育ちと環境(絵本を読んで創作絵本, パネルシアター、エプロンシアターを考える)	(内 容) 話し合い活動を通して、自分の問題意識の発見を促す。 (必要な準備) 自分の得意な活動をひとつ考えておくこと	
第4回	子どもの育ちと環境	(内 容) 幼児の大切なことを話し合い、計画を立てる。 (必要な準備) 5領域に即した指導計画を考える	
第5回	体験学習による事例研究か教材研究 制作	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 必要なものは準備、個人での必要物は個人で準備	
第6回	体験学習による事例研究か教材研究 リズム遊び	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 楽器や製作楽器など、音の鳴るもの	
第7回	体験学習による事例研究か教材研究 音楽	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 楽譜や音楽用テキスト	
第8回	体験学習による事例研究か教材研究 ゲーム	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 教育実習で使用しようとしている指導案	
第9回	体験学習による事例研究か教材研究 素話	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) いくつかの絵本をピックアップしておくこと	
第10回	体験学習による事例研究か教材研究 集団遊び	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。 (必要な準備) 伝承遊びを中心に集団で遊べるものを考えておく	
第11回	体験学習による事例研究か教材研究 早期教育	(内 容) 具体的に研究したり製作したりする。発表の仕方の練習 (必要な準備) 図書館等で早期教育に関する資料を集めておくこと	
第12回	具体的事例か教材研究の発表・討議 造形	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 子どもたちに作らせる予定の教材を用意する	
第13回	具体的事例か教材研究の発表・討議 人間関係	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する。 (必要な準備) 筆記用具	
第14回	具体的事例か教材研究の発表・討議 言葉	(内 容) 具体的に研究したが製作したことについて発表・討議する (必要な準備) 自分の読みたい絵本をいくつか用意しておくこと	
第15回	まとめ	(内 容) 研究したり製作したことについて反省する。 (必要な準備) 半年間の振り返りに必要なものを用意しておくこと	

授 業 名	総合演習 B			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>1、短期大学2年間の学修の成果が出るように各自のテーマを見つけ1年間を通して主体的に取り組む。</p> <p>2、幼児に関する現代的なトピックスに関心を持ち、文献の収集、レポートの作成に取り組む。</p> <p>3、卒業研究に向けて各自、準備を行う。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1、乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力を育成する。</p> <p>2、幅広い教養教育を基本として人間性豊かな感性を身につける。</p> <p>3、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる力を養う。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	なし							
参 考 書	適宜提示する。							
留 意 事 項	積極的な授業へのかかわりを重視する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回に提示する							

授 業 名		総合演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション、自己紹介	(内 容) 授業の進め方などについて説明・自己紹介。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	学生生活を充実させるため知識や学びの姿勢を深める。	(内 容) 自然観察・地域社会への理解を深める。 (必要な準備) 見学先の下調べをしておく。	
第3回	文献の収集、インターネットやPCの活用力を高める。	(内 容) 関心のあるテーマの内容を詳しく調べる。 (必要な準備) 実習をふり返る。	
第4回	学外授業	(内 容) テーマにそくした教材の製作。 (必要な準備) 材料の事前確保。	
第5回	卒業研究の意義を学び各自のテーマを決める。	(内 容) テーマにそくした教材の製作。 (必要な準備) 材料の事前確保。	
第6回	卒業研究に向けて学習スケジュールを立てる。	(内 容) 製作した教材の実践方法を検討、意見交換をする。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第7回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 製作した教材の実践方法を検討、意見交換をする。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第8回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 実習に向けて保育の現状を理解し、各自の問題意識を高める。 (必要な準備) プリントを読んでおく。	
第9回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第10回	各自の学習の進捗状況について面談。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第11回	学外授業	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第12回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する。 (必要な準備) 調査した内容をまとめておく。	
第13回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査内容の発表。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第14回	文献の整理、資料のまとめ方を学ぶ。	(内 容) 調査内容の発表。 (必要な準備) 発表に必要な準備。	
第15回	まとめ、春学期の振り返り、夏期休業中の課題。	(内 容) 授業をふりかえり、今後の課題を検討する。 (必要な準備)	

授 業 名	総合演習 C			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	小川 隆昭			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	様々な楽器や子どものうた等、手遊びも交え音楽表現を深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力の育成に努める。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につける。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成をめざす。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽表現能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	卒業研究のテーマを各自決める。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合演習 C
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 春学期授業内容の説明。 (必要な準備) シラバス
第2回	保育実習反省会	(内 容) 春休みに行った実習の反省会。 (必要な準備) 実習をふりかえっておく。
第3回	卒業研究テーマ	(内 容) 卒業研究のテーマを決める。 (必要な準備) 各自考えること。(120分)
第4回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 歌と手遊びの練習(60分)
第5回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 歌と手遊びの練習(60分)
第6回	教育実習準備	(内 容) 実習園で弾くピアノ伴奏などのアドバイス。 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第7回	教育実習準備	(内 容) [教育実習準備]継続 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第8回	教育実習準備	(内 容) [教育実習準備]継続 (必要な準備) ピアノ伴奏練習すること。(60分)
第9回	楽器指導	(内 容) 楽器の使い方。 (必要な準備) 楽譜を読む(60分)
第10回	楽器指導	(内 容) 合奏 (必要な準備) 楽譜を読む(60分)
第11回	楽器指導	(内 容) 発表 (必要な準備) 発表の練習・準備をしておく。楽譜を読む(60分)
第12回	指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて指導の仕方を実践。 (必要な準備) 練習(120分)
第13回	指導実践	(内 容) 継続 (必要な準備) 練習(120分)
第14回	指導実践	(内 容) 継続 (必要な準備) 練習(120分)
第15回	まとめ	(内 容) 春学期の反省 (必要な準備)

授 業 名	総合演習 D			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	秋学期終了時に提出する卒業研究レポートに向けて、卒業研究のテーマを考え、情報を収集する方法を知り、卒業研究レポートにふさわしい書き方を学ぶ。どのように研究テーマを絞り込み、どのように研究に取り組むのか、全員でディスカッション等しながら学ぶ。必要に応じて、音楽や制作の体験も取り入れ、体験的な取り組みをレポートにまとめる方法を考える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 卒業研究に向けて、幼児教育・保育に関することで、各自興味のあるテーマを設定することができる。 2) 卒業研究のテーマについて、プレゼンテーションができる。 3) 卒業研究の中間報告をレポートにまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	適宜資料を配布する							
参 考 書	小笠原喜康著『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書							
留 意 事 項	2回生のゼミでは、1年かけて自分が特に興味を持っている事柄について、卒業研究として取り組みます。自主的・積極的な取り組みが大切です。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授 業 名		総合演習 D
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) 自己紹介・ゼミの仲間と知り合う。 2回生ゼミで取り組む卒業研究についての説明をする。 (必要な準備) 自己紹介の内容を考えてくる。
第2回	卒業研究で取り組むテーマを考える(グループワーク)	(内 容) 幼児教育や保育に関する卒業研究のテーマとしてどのようなものが考えられるか、グループごとに考え、発表する。 (必要な準備) 卒業研究のテーマはどのようなものが考えられるか考えてくる。
第3回	卒業研究で取り組む大まかなテーマを決める	(内 容) 前回のグループワークを元に、自分自身が取り組みたいテーマを考え、小レポートにまとめる。この時点ではまだ、大まかなテーマで良い。 (必要な準備) 自分が取り組みたいテーマを考えてくる。
第4回	文章の書き方の基本ルールを学ぶ	(内 容) 卒業研究レポートにふさわしい文章の基本的な表記法について学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第5回	自分で調べる方法を学ぶ	(内 容) 学術書やインターネット等から、卒業研究に必要な情報を収集する方法を学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第6回	レポートをメールで送る方法を学ぶ	(内 容) ワードファイルを添付してメールで送る方法を学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。 パソコンの操作の仕方を復習しておく。
第7回	プレゼンテーションの準備と方法を学ぶ	(内 容) プレゼンテーションの目的・方法・準備について学ぶ。 (必要な準備) 配布するプリントを読んでおく。
第8回	研究テーマの絞り方を学ぶ	(内 容) 第3回の授業で考えた大まかな研究テーマから、今回の卒業研究にふさわしい規模に研究テーマを絞る。 (必要な準備) 第3回の授業で考えた大まかな研究テーマの中で、具体的に研究したいことを考えておく。
第9回	個別指導 -1: 研究テーマの確認と検討及びプレゼンテーションへの個別指導	(内 容) 個別面談を行い、各自の研究テーマを確認・検討すると同時に、第11回～13回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (必要な準備) 各自研究テーマを決めておく。 研究テーマのプレゼンテーションの準備を進めておく。
第10回	個別指導 -2: 研究テーマの確認と検討及びプレゼンテーションへの個別指導(前回からの続き)	(内 容) 個別面談を行い、各自の研究テーマを確認・検討すると同時に、第11回～13回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (必要な準備) 各自研究テーマを決めておく。 研究テーマのプレゼンテーションの準備を進めておく。
第11回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第12回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション(前回からの続き)	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第13回	プレゼンテーション: 研究テーマの発表とディスカッション(前回からの続き)	(内 容) 各自が決定した研究テーマについて発表し、発表された内容について全員でディスカッションを行う。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第14回	個別指導 -1: 中間報告レポートの進捗状況と指導	(内 容) 個別面談を行い、中間報告レポートの進捗状況を確認・指導する。 (必要な準備) 各自中間報告レポートを進めておく。
第15回	個別指導 -2: 中間報告レポートの進捗条項と指導(前回からの続き)	(内 容) 個別面談を行い、中間報告レポートの進捗状況を確認・指導する。 (必要な準備) 各自中間報告レポートを進めておく。

授 業 名	総合演習 E			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>実習を経験して見えてきた自分自身の課題について客観的にとらえ、子ども理解と保育実践の力を、より確実に身につける。2年間の学びの中から各自がテーマを選び、卒業研究に取り組む。ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団のひとりとしての自覚をもって活動する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 各自の興味関心に基づいて研究テーマを設定し、創造的に学びをすすめる。 3) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 4) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	随時紹介する。							
参 考 書								
留 意 事 項	実習や就職・進路に向けて、落ち着いて臨めるように、随時面談を行う。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 自己紹介	(内 容) ゼミの目的や卒業研究について理解する。 (必要な準備) 1回生ゼミの内容を振り返る。(30分)	
第2回	卒業研究に向けて1 概要	(内 容) 取り組みの概要を理解する。 (必要な準備) 取り組みたい内容を考えてくる。(60分)	
第3回	フィールドワーク	(内 容) 京都の春の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第4回	卒業研究に向けて2 テーマの検討	(内 容) テーマを発表し、検討し合う。 (必要な準備) 取り組みたい内容を再検討してくる。(60分)	
第5回	卒業研究に向けて3 テーマの決定と計画	(内 容) テーマを決定し、計画書をつくる。(60分) (必要な準備) テーマと目的をまとめる。(60分)	
第6回	保育内容の研修1	(内 容) 卒業研究テーマを取り上げ、方法を検討する。 (必要な準備) 卒業研究計画書の提出(90分)	
第7回	フィールドワーク	(内 容) 遠足のスポットを体験し、保育者の視点で考える。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第8回	保育内容の研修2	(内 容) 卒業研究テーマを取り上げ、方法を検討する。 (必要な準備) 卒業研究の進め方をまとめる。(60分)	
第9回	教育実習での取り組み1	(内 容) 各自が保育内容を立案・実践・振り返りを行う。 (必要な準備) 実習に必要な準備を行う。(90分)	
第10回	教育実習での取り組み2	(内 容) 各自が保育内容を立案・実践・振り返りを行う。 (必要な準備) 実習に必要な準備を行う。(90分)	
第11回	実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換をする。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。(30分)	
第12回	卒業研究の取り組み1	(内 容) 各自のテーマにそって取り組みを進める。 (必要な準備) 授業外でも取り組みを進める。(60分)	
第13回	卒業研究の取り組み2	(内 容) 各自のテーマにそって取り組みを進める。 (必要な準備) 授業外でも取り組みを進める。(60分)	
第14回	卒業研究の中間発表(前半)	(内 容) 卒業研究の中間発表を行う。 (必要な準備) 発表準備をしてくる。(60分)	
第15回	卒業研究の中間発表(後半)	(内 容) 卒業研究の中間発表を行う。 (必要な準備) 発表準備をしてくる。(60分)	

授業名	総合演習 F			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	鈴木 えり子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	乳幼児の保育活動を実践的にイメージし保育者としての資質を向上させる。 様々な角度から子どもを取り巻く環境について体験を通して考える機会をもつ。							
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	随時提示する							
留意事項	積極的に参加してください							
オフィス アワー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合演習 F	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス・自己紹介	(内 容) 講義内容の説明と相互交流をする (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)	
第2回	フィールドワーク	(内 容) 自然環境をリサーチする (必要な準備) 歩きやすい服装で参加する	
第3回	グループワーク 1	(内 容) 偏愛マップを使用して相互交流をする (必要な準備) 偏愛マップを作成する(30分)	
第4回	グループワーク 2	(内 容) 偏愛マップを使用した相互交流について意見交換をする (必要な準備) 偏愛マップによる相互交流についてまとめてくる(30分)	
第5回	保育実践 1	(内 容) 牛乳パックを使った制作をする (必要な準備) 牛乳パックを集めて持ってくる、色鉛筆を持ってくる	
第6回	保育実践 2	(内 容) 牛乳パック制作を個人発表する (必要な準備) 牛乳パック制作を完成させる(60分)	
第7回	保育実践発表	(内 容) 保育実践の個人課題を発表し資料をさがす、準備をする (必要な準備) 保育実践課題を考えてくる、必要な材料や資料を準備してくる	
第8回	フィールドワーク (動物園見学)	(内 容) 春の遠足先である動物園へ行く (必要な準備) 動きやすい服装で参加する	
第9回	保育実践課題に取り組む 1	(内 容) 保育実践課題を決定し進める (必要な準備) 資料収集をして準備をする、材料等を考えて持ってくる(30分)	
第10回	保育実践課題に取り組む 2	(内 容) 保育実践課題に取り組む (必要な準備) 材料、資料など必要なものを持ってくる	
第11回	保育実践課題に取り組む 3	(内 容) 保育実践課題を完成させる (必要な準備) 完成に必要な材料など必要なものを持ってくる	
第12回	保育実践課題 発表 1	(内 容) 保育実践課題を発表する (必要な準備) 発表練習をしておく(30分)	
第13回	保育実践課題 発表 2	(内 容) 保育実践課題を発表する (必要な準備) 発表練習をしておく(30分)	
第14回	個別面談	(内 容) 個別面談をする (必要な準備) 将来について考えてくる(30分)	
第15回	まとめ 秋学期の課題について	(内 容) 春学期を振り返り秋学期に向けての研究課題を考える (必要な準備) 自分の意見を考えてまとめておく(15分)	

授業名	総合演習 G			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	History Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	武田 康晴			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者を目指す自分あるいは幼児教育・保育を学び社会人となる自分と向き合い、ありたい姿を考え、そのために必要なこと（ニーズ）を整理し、ニーズを満たすために取り組む場とします。基本的には、各自が自分と向き合い、自分のニーズに取り組みますが、ゼミメンバーと共に取り組む活動を取り入れ、他者の中で自分がどうすべきか、保育者になった際のチームアプローチについても体験的に学びます。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) ありたい自分の姿と、そのために取り組むべきことが明確になっている。 2) 他者に対して、他者に配慮しながら自分の意見を述べられるようになる。 3) ありたい自分になるために具体的な取り組みを始めており言語化できるようになる。</p>							
評価方法	定期試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	適宜、資料等を配布する。							
参考書	必要に応じて紹介する。							
留意事項	主体的な参加、発言を期待する。授業中に取り組む課題については、やむをえない事情があって欠席の場合は後日提出を求める。評価では、授業への参加、発言等を重視する。							
オフィスアワー	水曜、木曜、金曜の12:30~13:00を基本とするが、詳細は研究室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 G
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について相談、共有する。また、自己紹介や関係作りのワークを適宜実施する。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。
第2回	ありたい自分について考える(1) 望む将来像	(内 容) ワークシートを使って各自が望む将来像を整理し、口頭で報告する。 (必要な準備) 前週に伝達した内容について自分なりに考えメモを作成しておく。
第3回	ありたい自分について考える(2) 自己覚知	(内 容) 「人生株式市況」や「価値観の競売」等のワークを使い、自分自身の価値観や他者との違いについて考える。 (必要な準備) 前週の内容を復習しておく。
第4回	ありたい自分について考える(3) 理想の保育者像	(内 容) ブレーンストーミングとKJ法の手法を用い、保育者に必要な要素について整理、共有する。 (必要な準備) 前週に伝達した内容について各自で考えメモを作成しておく。
第5回	研究発表のテーマ選定	(内 容) これまでの演習内容を踏まえ、ワークシートを使い研究テーマと研究概要を整理する。ワークシートは授業後に提出する。 (必要な準備) これまでの演習内容を復習しておく。
第6回	グループ発表の準備(1) グループの編成と研究の進め方	(内 容) 全集作成した個人シートをもとに小グループを編成し、グループごとで、グループ発表のテーマ、研究の進め方、発表の仕方などを協議する。 (必要な準備) 自分の研究テーマ、課題を口頭で説明出来るようになっておく。
第7回	グループ発表の準備(2) 発表資料の作成と発表方法の決定	(内 容) 事前学習の資料を持ち寄り、発表資料を作成すると共に発表の手順について相談する。 (必要な準備) グループで決めたテーマ、進め方に従い事前準備を進めておく。
第8回	グループ発表の準備(3) 発表資料の完成	(内 容) 事前学習の資料を持ち寄り、発表資料を完成する。 (必要な準備) グループで決めたテーマ、進め方に従い事前準備を進めておく。
第9回	グループ発表(1)	(内 容) 発表が当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 発表資料を完成し、指定された期日までにGmailで提出する。
第10回	グループ発表(2)	(内 容) 発表に当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 前週の発表内容を復習しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第11回	グループ発表(3)	(内 容) 発表に当たっているグループ(約2~3グループを予定)が、メンバー1人当たり10分の合計持ち時間でグループ発表と質疑応答を実施する。 (必要な準備) 前週の発表内容を復習しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第12回	個人研究テーマの再整理	(内 容) 前週までの発表内容を踏まえ、整理シートを使って個人研究テーマを再検討する。 (必要な準備) 全ての発表内容にもう一度目を通しておく。発表したグループメンバーは、各自で発表振り返りシートを記入し、Gmailで提出する。
第13回	個人研究テーマの共有	(内 容) 一人あたり持ち時間4~5分程度で個人研究テーマの発表、質疑応答を実施する。 (必要な準備) 個人研究テーマ(前週の整理シート)の概要を3分程度で説明できるように準備しておく。
第14回	個人レポートの作成	(内 容) 今学期の内容を振り返り、個人レポートを作成する。 (必要な準備) 今学期の演習内容を復習しておく。
第15回	個人レポート及び夏期休暇の課題と総括	(内 容) 個人レポート及び各休暇中の課題について発表する。また、今学期の総括を行う。 (必要な準備) 個人レポートの内容を見直し、口頭で発表できるように準備しておく。

授 業 名	総合演習 H			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者としての自覚を深めるとともに、教育に携わる者としての幅広い知識と教養を身につける。 2年間の学びの集大成として学生各自のテーマに沿って「卒業研究」を行う。 「卒業研究」は教員の指導を受けて、各自が1600文字程度のレポートとして完成させる。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力を身につけることができる。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につけることができる。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けることができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	プリント							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	積極的に取り組み、学習成果を発表する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合演習 H
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 総合演習の目的を理解し、学習の進め方を理解する。 (必要な準備) シラバスを読み授業内容を理解しておく。
第2回	1年間の学習計画と卒業制作について	(内 容) 総合演習で取り組む卒業研究の意味やその取り組み方法について学ぶとともに年間を通した学習計画を立てる。 (必要な準備) 年間の学習内容を整理しておく。
第3回	卒業研究のテーマの検討と設定	(内 容) 卒業研究のテーマ案や方法案についてこれまでの学びをベースに検討する。 (必要な準備) 卒業研究のテーマや方法について1回生時の学びから整理しておく。(60分)
第4回	個別面談で整理	(内 容) 個別に学習の状況及び研究テーマについて確認する。 (必要な準備) 研究テーマに関して自身の関心に基づいてその内容やテーマ候補を整理しておく。(60分)
第5回	個別面談で整理	(内 容) 個別に学習の状況及び研究テーマについて確認する。 (必要な準備) 研究テーマに関して自身の関心に基づいてその内容やテーマ候補を整理しておく。(60分)
第6回	6月実習に向けての準備	(内 容) 1回生時の実習を振り返り、問題点を整理し次の課題を見つける。 (必要な準備) 1回生時の実習の振り返り用資料を用意しておく。(30分)
第7回	6月実習に向けての準備	(内 容) 1回生時の実習を振り返り、問題点を整理し次の課題を見つける。 (必要な準備) 1回生時の実習の振り返り用資料を用意しておく。(30分)
第8回	卒業研究のテーマの検討	(内 容) 具体的な研究テーマや方法を文献などを参考にしながら検討する。 (必要な準備) 興味・関心のある分野の文献などを収集し読んでおく。(60分)
第9回	卒業研究のテーマの検討	(内 容) 具体的な研究テーマや方法を文献などを参考にしながら検討する。 (必要な準備) 興味・関心のある分野の文献などを収集し読んでおく。(60分)
第10回	卒業研究の計画立案	(内 容) 卒業研究の具体的な執筆計画を立てる。 (必要な準備) 研究執筆に向けて仮説を立て、研究方法を考えておく。
第11回	卒業研究の計画立案	(内 容) 卒業研究の具体的な執筆計画を立てる。 (必要な準備) 最終的な分析方法とレポートの構成を考えておく。
第12回	卒業研究テーマの発表と共有	(内 容) 各自が考えた卒業研究のテーマとその内容を発表し、質疑応答を通してその内容を深め共有する。 (必要な準備) テーマと発表内容をまとめて提示資料を作成しておく
第13回	夏実習に向けて	(内 容) 6月実習を振り返り、問題点を整理し次の実習につながる課題を見つけ設定する。 (必要な準備) 6月実習を振り返っておく。(30分)
第14回	夏実習に向けて	(内 容) 6月実習を振り返り、問題点を整理し次の実習につながる課題を見つけ設定する。 (必要な準備) 6月実習を振り返っておく。(30分)
第15回	春学期総合演習の振り返り	(内 容) 春学期の授業全体を振り返り、秋学期に向けた学習の方向性を整理し、夏季休暇中の活動を考える。 (必要な準備) 春学期の授業を振り返り、学びの内容や目標の到達度などを整理しておく。(30分)

授業名	総合演習 I			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	1年生時の授業や実習から保育者としての自らの強みと課題を分析し、実践力の向上にむけて、一人ずつテーマを設定する課題解決的な学び、共通の問題意識をもったグループでの協調的な学び、ゼミ生全員で取り組む各種活動を通して、子どもへの理解を深め、保育者としての実践力を、より確実に身につける。その過程で、ほかのゼミ生への学びの貢献によって相互に高める関係づくりを通して、現場で求められる同僚性を獲得する。							
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、担当者が作成したプリントを配付する							
参考書	適宜、紹介する							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(60%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(15%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	チームビルディング	(内 容)	新しいゼミメンバーのひとりとなりを理解するために、前年度の学修経験を互いに共有する (必要な準備) 1年生時の学修と春休みにおこなった実習のふりかえりと反省を考えてくる
第2回	卒業研究のテーマを浮かべる	(内 容)	ブレイン・ストーミングにより課題発見 (必要な準備) 卒業研究の大きなテーマとして創作おもちゃ、伝統文化、情報教育の三つについて情報を収集してくる
第3回	卒業研究のテーマを練る	(内 容)	マインドマップによる問題意識の整理 (必要な準備) 書籍やインターネットを使って浮かび上がってきた課題を追究
第4回	研究テーマの明確化	(内 容)	ワールド・カフェ形式で見通しをもつ (必要な準備) 完成したマインドマップ
第5回	テーマごとのグループ学習	(内 容)	卒業研究の3つのテーマのうち、もっとも関心のあるものを選択する。同じテーマを選択したもの同士、互いに問題意識を共有する (必要な準備) 卒業研究の見通し
第6回	テーマ別グループ発表の準備	(内 容)	問題意識の近い者でグループになり資料を集め、書籍やインターネットから保育現場で実際におこなわれているテーマに沿った活動をプレゼンテーション用の資料にまとめる (必要な準備) 研究テーマをまとめたワークシート
第7回	テーマ別グループ発表（創作おもちゃ）	(内 容)	創作おもちゃの保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第8回	テーマ別グループ発表（伝統文化）	(内 容)	伝統文化の保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第9回	テーマ別グループ発表（情報教育）	(内 容)	情報教育の保育について、ねらい、効果、保育上の留意点の概要を理解する (必要な準備) プレゼンテーション用の資料
第10回	グループ発表のふりかえり	(内 容)	3回にわかって実施したグループ発表の自己評価、相互評価、教員からの指導助言 (必要な準備) グループ発表の感想
第11回	グループ発表の成果をもとに個人の研究テーマの選定	(内 容)	グループ発表の成果をまとめ、自分の卒業研究テーマにつなげる (必要な準備) 個人の研究テーマのしぼりこみ
第12回	個人の研究テーマに基づいて教材研究	(内 容)	書籍やインターネットや試作をしながら、卒業研究テーマに沿った保育案を考える (必要な準備) 個人の研究テーマに関連した既存の保育案
第13回	卒業研究の中間報告に向けてレポート作成	(内 容)	研究テーマに沿った保育案とそのねらい (必要な準備) 自ら作成した保育案
第14回	卒業研究の中間報告（前半）	(内 容)	1名あたり8分で中間発表を実施する。聴き手は発表者にコメントする。 お互いの研究を講え、更なる研鑽につなげる。 (必要な準備) 中間報告書
第15回	卒業研究の中間報告（後半）	(内 容)	(前回からの続き) 1名あたり8分で中間発表を実施する。聴き手は発表者にコメントする。お互いの研究を講え、更なる研鑽につなげる。 (必要な準備) 中間報告書

授業名	総合演習 J			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>パネルシアターなどの劇表現や壁面構成によって造形力、表現の力を身につける。 また、教材研究として造形関連の指導案、作品制作などを行う。 お互いのよいところに気づき、集団で活動するためのコミュニケーション能力を高める。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どものためのストーリー、表現等をよく考え、制作して演じる力を身につける。 2) 造形材料、色や形から教材研究する力をつける。 3) 仲間の取り組みから学び、それぞれの表現の良さを発見する。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	必要に応じて指示する。							
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の希望により決定し、緊急室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 J
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業についての概要説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分程度)
第2回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターの構想を練る (必要な準備) 劇表現にするアイデアを考えておく(30分程度)
第3回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターに用いる人形の制作を始める (必要な準備) 制作に必要な資料を持参する(30分程度)
第4回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターに用いる人形の制作を進める (必要な準備) 新たに必要なものを持参する(30分程度)
第5回	劇表現の取り組み	(内 容) 人形を仕上げ、発表練習などをする (必要な準備) 大まかな時間の流れを考えておく(30分程度)
第6回	劇表現の取り組み	(内 容) パネルシアターの発表と鑑賞 (必要な準備) 発表練習をしておく(30分程度)
第7回	実習報告会	(内 容) 教育実習の反省・報告 (必要な準備) 自分の実習について振り返っておく(30分程度)
第8回	フィールドワーク	(内 容) ギャラリーをまわる (必要な準備) 地図を確認し調べをしておく(30分程度)
第9回	フィールドワーク	(内 容) 作品についてのレポート (必要な準備) つくる人の言葉をインタビューする(30分程度)
第10回	教材研究	(内 容) テーマの設定 (必要な準備) 材料、技法を調べておく(30分程度)
第11回	教材研究	(内 容) 参考作品の制作 (必要な準備) 細部のアイデアを考えておく(30分程度)
第12回	教材研究	(内 容) 指導案づくり (必要な準備) 仕上がりの様子を考えておく(30分程度)
第13回	教材研究	(内 容) 発表会(作品の鑑賞 取り組みの評価) (必要な準備) 自分の作品や取り組みについてまとめる(30分程度)
第14回	秋学期の取り組みに向けて	(内 容) 自分の研究したいテーマを探す (必要な準備) 事前に考えておく(30分程度)
第15回	まとめ	(内 容) 春学期授業の振り返り (必要な準備) 授業で学んだことをまとめておく(30分程度)

授業名	総合演習 K			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	1年生時の授業や実習から保育者としての自らの強みと課題を分析し、実践力の向上を図る。特に、食を通じて健康な心と体を育て、自らが健康で安全な生活を作り出す能力を養う必要がある。食嗜好や朝食の欠食、咀嚼力の低下等の多様な問題点を理解し、解決するため保育者としての実践力を習得する。							
学習成果到達目標	<p>幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。</p> <p>人間性豊かな幼児教育者として豊かな感性や知性、表現力を身に付けることができる。</p> <p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材を養成できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行い、学期中に2～3回課題を設定し提出してもらおう。							
オフィス アワー	第1回の授業で提示する							

授 業 名		総合演習 K	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自己紹介 (必要な準備) シラバスを読んでおく	
第2回	発表(1)	(内 容) 保育実習での学びと気づいたこと (必要な準備) 実習を振り返っておく	
第3回	発表(2)	(内 容) 保育実習での学びと気づいたこと (必要な準備) 実習を振り返っておく	
第4回	フィールドワーク	(内 容) 大学周辺を散策する (必要な準備) 大学周辺の地図を確認しておく	
第5回	研究課題の検討	(内 容) 興味ある課題を考えておく (必要な準備) ホームページなどで情報収集	
第6回	資料収集	(内 容) 問題意識の近い者でグループになり資料集め (必要な準備) 研究テーマをまとめたワークシート	
第7回	資料整理	(内 容) 集めた資料を整理し発表の役割分担 (必要な準備) 前時に収集した資料	
第8回	発表資料の作成	(内 容) 役割分担に基づきグループ発表資料作成 (必要な準備) 前時にまとめた工程表	
第9回	子どもの遊びを考える	(内 容) 子どものさまざまな遊びを全体で研究 (必要な準備) 遊びの提案	
第10回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第11回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第12回	グループ発表	(内 容) グループによる発表・討議 (必要な準備) グループ発表の資料	
第13回	映像から子ども理解を深める	(内 容) 映像教材をみて子どもの視点をまとめる (必要な準備) グループ発表のふりかえりシート	
第14回	個人レポートの作成	(内 容) 今期追究したテーマをレポートにまとめる (必要な準備) これまでの研究ノート	
第15回	レポート発表と総括	(内 容) 各自の研究成果に対する総括 (必要な準備) 個人発表資料	

授 業 名	総合演習 A			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	総合演習 で学んだことを基礎に、子育てと環境とのかかわりについて、自分が問題とする課題のもと研究をすすめる。その間、中間発表をしながら討議・分析を重ね、課題について、幼児の人間としての育ちを援助するための方法・技術を考え、保育者としての役割の重要性を自覚する。最後に卒業研究としてレポートを作成する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける 3) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	課題にそってグループ研究を進め、レポートとしてまとめ発表する。授業への積極的参加を求めます。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第 1 回目の授業にて告知。							

授 業 名		総合演習 A	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	休暇中の課題の発表と討議	(内 容) 休暇中の課題の発表と討議 (必要な準備) 筆記用具	
第2回	各自の課題の絞り込み 資料の収集	(内 容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (必要な準備) 課題をまとめたレジメを作成すること	
第3回	各自の課題の絞り込み パワーポイント作成	(内 容) 各自の課題の絞り込みのために意見交換をする。 (必要な準備) パワーポイント作成に必要な資料	
第4回	課題による研究・実践 実習での課題	(内 容) 課題による研究・実践をするための教材の計画や準備をする。 (必要な準備) 各自教材・資料を持参する。	
第5回	課題による研究・実践 子どもたちの支援	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 子ども支援に焦点を当てた資料を用意すること	
第6回	課題による研究・実践 早期教育の功罪	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 早期教育に関する資料を用意すること	
第7回	課題による研究・実践 教材研究	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した教材	
第8回	課題による研究・実践 環境構成と発達	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 環境や発達に関する資料	
第9回	課題による研究・実践 制作と遊び	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した指導案	
第10回	課題による研究・実践 人間関係の構築	(内 容) 課題による研究・実践を行う。 (必要な準備) 教育実習・保育実習で作成した教材	
第11回	課題の発表・討議 ディベート	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 設題に沿った資料	
第12回	課題の発表・討議 KJ法を用いた要約	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 筆記用具・付箋紙・模造紙	
第13回	課題の発表・討議 シンポジウム形式の発表	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 限られた時間で発表するための資料	
第14回	課題の発表・討議 幼児教育の方向性	(内 容) 具体的に研究したり製作したことについて課題の発表・討議をする。 (必要な準備) 幼児教育に関する資料	
第15回	レポート作成にむけて	(内 容) レポートを作成するための留意点について解説する。 (必要な準備) これまでの発表資料を持参すること。	

授 業 名	総合演習 B			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>1、短期大学2年間の学修の成果が出るように各自の卒業研究のテーマを深める。 2、卒業研究に必要な資料や新聞記事、文献の収集、レポートの作成に取り組む。 3、卒業研究を仕上げ、各自がゼミの中で発表し互いに講評し合う。</p>							
学習成果到達目標	<p>1、卒業研究をまとめることで文章力を高め、PCの活用や情報処理の方法に習熟する。 2、幅広い教養教育を基本として人間性豊かな感性を身につけて実践力のある保育者に育つ。 3、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる力を養う。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	なし							
参考書	適宜提示する							
留意事項	積極的な態度を重視する							
オフィス アワー	初回に提示する							

授 業 名		総合演習 B	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス夏期休業中の課題についての提出、確認。秋学期の学習の目標を立てる。	(内 容)	授業の進め方などについて説明する (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	課題の検討、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	関心のある事柄について、概要を調べる (必要な準備) プリントを読んでおく
第3回	卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	決定したテーマを発表する (必要な準備) テーマの検討
第4回	卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。学外授業	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第5回	茶道の基本を学び実践する。	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第6回	季節に応じた保育内容を学ぶ(春から夏)	(内 容)	芸術に親しみ、感性を養う (必要な準備) 見学先の予習
第7回	季節に応じた保育内容を学ぶ(秋から冬)	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第8回	外国の幼児教育を学び視野を広げる	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第9回	個別指導、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	調査したことの報告と内容の検討、今後の方針などを個別に指導する (必要な準備) 資料収集と整理
第10回	個別指導、卒業研究に向けて各自の進捗状況の確認。	(内 容)	レポートの組み立てについて個別に指導する (必要な準備) レポートの組み立てを考える
第11回	個別指導、卒業研究のまとめを行い仕上げる。	(内 容)	パワーポイントによって原稿を作成する (必要な準備) 資料の整理
第12回	個別指導、卒業研究のまとめを行い仕上げる。	(内 容)	パワーポイントによって原稿を作成する (必要な準備) 資料の整理
第13回	各自の卒業研究を仕上げ提出する。	(内 容)	調査内容の発表 (必要な準備) パワーポイント完成
第14回	発表、卒業研究についてゼミの中で順番に発表する。	(内 容)	調査内容の発表 (必要な準備) パワーポイント完成
第15回	発表、卒業研究についてゼミの中で順番に発表する。	(内 容)	レポートを完成させて提出する (必要な準備)

授 業 名	総合演習 C			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	小川 隆昭			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所などでは様々な行事が行われるが、生活発表もその中で重要な位置を占める。最近では園外での合奏 発表なども盛んである。そこでこの授業では、どの楽器をどのように使えば有効かなど、曲選び・アレンジを中心に、保育現場での実践的な指導を研究する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 乳幼児期の教育・保育に関する専門的知識の習得と実践的指導力の育成に努める。 2) 幅広い教養教育を基本として人間性豊かな幼児教育者に成長するために豊かな感性を身につける。 3) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成をめざす。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽表現能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	自分たちだけが合奏を楽しむのではなく、合奏することの楽しさを、いかに子どもたちに伝えるかを各自考察してほしい。そして何より保育現場で役立つように。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室前に掲示。							

授 業 名		総合演習 C	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス、実習反省会、合奏指導実践準備	(内 容) 授業内容の説明、夏休みに行った実習の反省会。 合奏練習。 (必要な準備) 実習の感想を考えてくる。(30分)	
第2回	実習反省会、合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第3回	合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第4回	合奏指導実践(グループ発表)	(内 容) 個々の幼児用楽器の演奏法を練習。 (必要な準備) グループで練習(60分)	
第5回	個別相談	(内 容) 就活の相談 (必要な準備)	
第6回	就職試験に向けて	(内 容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (必要な準備) ピアノの練習(60分)	
第7回	就職試験に向けて	(内 容) 履歴書・自己PR・模擬面談・ピアノ (必要な準備) ピアノの練習(60分)	
第8回	合奏指導実践	(内 容) 他の学生を子どもに見立てて、合奏指導。 (必要な準備) 練習(60分)	
第9回	合奏指導実践	(内 容) 合奏指導。 (必要な準備) 楽譜を読む。(60分)	
第10回	合奏指導実践	(内 容) 合奏指導。 (必要な準備) 楽譜を読む。(60分)	
第11回	コンサート	(内 容) コンサート (必要な準備) 練習(60分)	
第12回	合奏指導の基礎知識	(内 容) 生活発表での選曲・アレンジ・記譜法・指揮法。 (必要な準備) 各自曲を考える。	
第13回	卒業研究個別相談	(内 容) 卒業研究 (必要な準備)	
第14回	卒業研究提出	(内 容) 卒業研究 (必要な準備)	
第15回	卒業研究発表	(内 容) 短大2年間で学んだこと。 (必要な準備)	

授 業 名	総合演習 D			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	各自が設定したテーマについて、卒業研究を進める。各自の研究に必要なフィールドワーク・ワークショップ・資料購読などを進め、卒業研究レポートとしてまとめる。中間発表等を通して、ゼミ全体で学びを深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 自身の卒業研究に必要な情報を自主的に調べ、必要があればフィールドワークやワークショップを計画・調整することができる。 2) 卒業研究について、プレゼンテーションができる。 3) 卒業研究をレポートにまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	小笠原喜康著『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書							
留 意 事 項	自主的・積極的・計画的な取り組みが重要です。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							

授業名	総合演習 D	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	卒業研究についての確認	(内 容) 秋学期の授業計画について説明する。 各自の卒業研究の進捗状況について報告する。 (必要な準備) 各自の卒業研究のテーマを確認しておく。
第2回	卒業研究の計画書の作成	(内 容) 卒業研究レポートを提出するまでの計画を立てる。 (必要な準備) 卒業研究レポート提出までの計画を考えておく。
第3回	個別指導：卒業研究計画書の内容について	(内 容) 前回作成した卒業研究の計画について個別指導を受ける。 (必要な準備) 計画書を完成させておく。
第4回	個別指導：卒業研究計画書の内容について（前回からの続き）	(内 容) 前々回作成した卒業研究の計画について個別指導を受ける。 (必要な準備) 計画書を完成させておく。
第5回	卒業研究レポート作成の作業	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第6回	卒業研究レポート作成の作業（前回からの続き）	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第7回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第8回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表（前回の続き）	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第9回	卒業研究中間報告会：各自の卒業研究についての中間発表（前回の続き）	(内 容) ここまで卒業研究を進めてきた内容を発表し、全員でディスカッションする。それぞれの研究がより良いものになるように、質問・提案・助言等を学生間で行う。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。
第10回	卒業研究レポート作成の作業	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第11回	卒業研究レポート作成の作業（前回からの続き）	(内 容) 各自、必要なフィールドワーク、ワークショップ、資料購読等を行う。 (必要な準備) 各自の作業に必要な準備を進めておく。
第12回	卒業研究レポートの執筆を開始する	(内 容) 卒業研究レポートを書き始める。内容・書き方について適宜個別指導をする。 (必要な準備) 卒業研究レポートの書き方を復習しておく。
第13回	卒業研究レポートを執筆する	(内 容) 卒業研究レポートを執筆する。内容・書き方について適宜個別指導をする。 (必要な準備) 卒業研究レポートを進めておく。
第14回	卒業研究レポートを完成させる	(内 容) 卒業研究レポートを完成し、教員に提出前の最後の指導を受ける。 (必要な準備) 卒業研究レポートを完成させておく。
第15回	卒業研究のプレゼンテーション	(内 容) 各自が1年かけて取り組んできた卒業研究を発表し、ゼミのメンバーで共有する。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備をしておく。

授 業 名	総合演習 E			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	下温湯 まゆみ			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	すべての実習を終えて見えてきた自分自身の課題や、保育現場の課題、子育てをめぐる社会状況などを総合的にとらえ、課題意識をもって卒業研究に取り組みまとめる。ゼミ生同士が交流を深め、積極的に意見を交換しながら高め合い、集団作りを担う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について理解を深める。 2) 設定した研究テーマに取り組み、課題意識をもって創造的に学びを深める。 3) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 4) 自らの学びを振り返り、社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力) ()
テ キ ス ト	随時紹介する。							
参 考 書								
留 意 事 項	卒業研究で設定した課題に向けて自主的に取り組むこと。必要に応じて個人面談を行う。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	金曜日12:30~14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		総合演習 E	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 実習体験交流会	(内 容) 実習体験を語り合い、意見交換をする。 (必要な準備) 実習で印象に残ったことをまとめておく。(30分)	
第2回	卒業研究の取り組み3	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 卒業研究計画書の提出(90分)	
第3回	特別企画と制作1 企画	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)	
第4回	特別企画と制作2 取り組み	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)	
第5回	特別企画と制作3 まとめ	(内 容) ゼミ員で協力して取り組みを進める。 (必要な準備) 必要な資料や教材の準備(60分)	
第6回	卒業研究の取り組み4	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)	
第7回	卒業研究の取り組み5	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)	
第8回	卒業研究の取り組み6	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)	
第9回	フィールドワーク	(内 容) 京都の秋の自然や文化に親しむ。 (必要な準備) 行き先について調べる。(20分)	
第10回	卒業研究の取り組み7	(内 容) 各自取り組みを進める。 (必要な準備) 取り組みの進行(60分)	
第11回	卒業研究まとめ1	(内 容) 卒業研究のまとめの原稿を作成する。 (必要な準備) 紙面にまとめる準備(90分)	
第12回	卒業研究まとめ2	(内 容) 卒業研究のまとめの原稿を作成する。 (必要な準備) 紙面にまとめる準備(90分)	
第13回	保育中の行事	(内 容) クリスマスや正月の行事に関する保育体験をする。 (必要な準備) 保育における行事の意味を考える。(30分)	
第14回	卒業研究の発表(前半)	(内 容) 卒業研究を発表する。 (必要な準備) 発表の準備(90分)	
第15回	卒業研究の発表(後半)	(内 容) 卒業研究を発表する。 (必要な準備) 発表の準備(90分)	

授 業 名	総合演習 F			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	2年間の学びのまとめを行う。現在の幼児教育に深い関心を持ち、卒業に向けた各自の研究課題を明確し、意見交流や資料収集を通して自分の考えをまとめる。さらに、子どもを取り巻く課題に気づき、将来に向けて保育実践力を向上させる。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児教育・保育に関心を持ち課題について深く探求できる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につける。 3) 自らの学びを振り返り社会に貢献する自己の役割を自覚できる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	研究課題を期日内に仕上げなければなりません。計画性をもって取り組みましょう。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名		総合演習 F	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 総合演習の達成目標の確認をする (必要な準備) 春学期の総合演習で配布したプリントを読んでおく(5分)	
第2回	研究課題(テーマ) 設定	(内 容) 幼児教育に関連した研究課題(テーマ、保育実践、見学観察など)を設定する (必要な準備) 図書館や情報メディアを通して保育や子育ての問題に関心をもち具体的に考えてくる(60分)	
第3回	研究課題(テーマ) 検討	(内 容) 各自の研究課題(テーマ)について発表、意見交流、検討する。 (必要な準備) 研究課題(テーマ)作成のための参考資料を収集してもってくる(30分)	
第4回	研究課題(テーマ) 再検討	(内 容) 研究課題について個別指導 (必要な準備) 計画の見直し、問題関心をまとめておく、研究課題にそって資料収集を用意する(30分)	
第5回	個別指導 1	(内 容) 研究課題について個別指導をする、個別面談をする (必要な準備) 研究課題の整理と方法を考えてくる(30分)	
第6回	個別指導 2	(内 容) 個人の研究課題について個別指導をする、個別面談をする (必要な準備) 課題の整理と方法を考えてくる(30分)	
第7回	研究課題 中間発表 1	(内 容) 研究課題の経過を報告・発表する、個別指導を受ける (必要な準備) 研究課題を中間発表用にまとめておく(15分)	
第8回	研究課題 中間発表 2	(内 容) 研究課題の経過を報告・発表する、個別指導を受ける (必要な準備) 研究課題を中間発表用にまとめておく(15分)	
第9回	フィールドワーク 1	(内 容) 保育施設を見学する (必要な準備) 見学にふさわしい服装で参加する	
第10回	フィールドワーク 2	(内 容) 学外を散策する(自然環境について考える) (必要な準備) 動きやすい服装で来る	
第11回	研究課題 まとめ	(内 容) 研究課題を仕上げる、まとめる (必要な準備) 研究課題を最終確認してまとめておく(60分)	
第12回	研究課題 提出	(内 容) 卒業研究課題を指定の用紙を使用して完成させ提出する、最終確認を行う (必要な準備) プレゼンテーション(発表)の準備をする	
第13回	研究課題 発表 1	(内 容) 研究課題の発表をする、意見交換、自己評価、相対評価をする (必要な準備) プレゼンテーションの準備をする、発表に必要なものを持ってくる	
第14回	研究課題 発表 2	(内 容) 研究課題の発表をする、意見交換、自己評価、相対評価をする (必要な準備) プレゼンテーションの準備をする、発表に必要なものを持ってくる	
第15回	まとめ 自己評価	(内 容) 一年間のまとめ、自分自身の今後の課題を明確にする 学びのステップアップシートを作成する (必要な準備) 1年間を振り返っておく	

授 業 名	総合演習 G			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	History Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者を目指す自分あるいは幼児教育・保育を学び社会人となる自分と向き合い、ありたい姿を考え、そのために必要なこと（ニーズ）を整理し、ニーズを満たすために取り組む場とします。基本的には、各自が自分と向き合い、自分のニーズに取り組みますが、ゼミメンバーと共に取り組む活動を取り入れ、他者の中で自分がどうすべきか、保育者になった際のチームアプローチについても体験的に学びます。また、期末には各自が研究レポートを作成し、ゼミ内で発表を行います。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) ありたい自分の姿と、そのために取り組むべきことが明確になっている。 2) 他者に対して、他者に配慮しながら自分の意見を述べられるようになる。 3) 興味のあるテーマについて自分の意見も含む研究レポートが完成している。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	適宜、資料等を配布する。							
参 考 書	必要に応じて紹介する。							
留 意 事 項	主体的な参加、発言を期待する。授業中に取り組む課題については、やむをえない事情があって欠席の場合は後日提出を求める。評価では、授業への参加、発言、また研究レポートの内容を重視する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜、木曜、金曜の12:30~13:00を基本とするが、詳細は研究室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 G	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について相談、共有する。また、卒業研究レポートを進めていくことをうながす。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。	
第2回	ありたい自分の確認	(内 容) 夏期休暇中の活動(実習や就職活動等)を踏まえ、また進路を見据えながら、ありたい自分を確認する。 (必要な準備) 学習内容に書いたことを口頭で説明できるようにしておく。	
第3回	わたし実現計画の作成(1)ありたい自分とニーズ整理	(内 容) ありたい自分(目指す保育者像、将来像)と、それに対応する現在の状況から、ありたい自分に近づくために必要なこと(ニーズ)を整理する。 (必要な準備) ありたい自分について、具体的に書き出せるように考えておく。	
第4回	わたし実現計画の作成(2)計画の作成	(内 容) 前週の演習で整理したニーズを満たすために、自分がすべきこと、整えるべき環境などを考え計画を作成する。 (必要な準備) ニーズ整理シートを完成させておく。	
第5回	わたし実現計画の発表と共有	(内 容) 小グループを作り、事前提出した実現計画を発表、質疑応答し、グループ内で共有する。また、個別面談中の課題について説明する。 (必要な準備) わたし実現シートを完成し、指定された期日までに事前提出する。	
第6回	個別面談(1)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。	
第7回	個別面談(2)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。	
第8回	個別面談(3)	(内 容) 卒業研究や進路について、1人当たり15分の個別面談を行う。 (必要な準備) 第5回の課題説明にしたがい課題に取り組む。	
第9回	卒業研究発表の準備	(内 容) 卒業研究発表について、役割分担、発表順、資料集の作成など準備を進める。 (必要な準備) 第5回に説明した課題を完成して事前提出する。	
第10回	卒業研究の発表(1)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。	
第11回	卒業研究の発表(2)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。	
第12回	卒業研究の発表(3)	(内 容) 一人あたり15分(発表10分、質疑5分)で卒業研究の発表と行う。また、発表者へのメッセージシートを配布する。 (必要な準備) 発表者は発表メモを作成する。	
第13回	卒業研究レポートの完成	(内 容) 自分の発表内容、他者の発表、メッセージシートを踏まえ、卒業研究レポートを見直し完成させる。 (必要な準備) 発表者へのメッセージシートを記入し事前提出する。	
第14回	卒業研究レポートの提出	(内 容) 持参した卒業研究レポートを提出しする。また、卒業や資格登録等について確認する。 (必要な準備) 卒業レポートを完成させて授業に持参する。	
第15回	1年間の振り返りと総括	(内 容) 1年間の演習内容、2年間の学生生活について振り返る。 (必要な準備) 1年間の授業内容を見直しておく。	

授 業 名	総合演習 H			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必 修 ・ 選 択	必 修	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	<p>保育者としての自覚を深めるとともに、教育に携わる者としての幅広い知識と教養を身につける。 短大での学びの集大成として年間を通して個々のテーマに沿って研究し成果物を作成する 視野を広げ多様な保育や幼児教育にも関心を広げる。</p>							
学 習 成 果 到 達 目 標	<p>1) 幼児期の教育、保育における環境の重要性について理解を深めることができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身につけることができる。 3) 自らの興味関心に基づいた研究を進め成果物を完成することができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	プリント							
参 考 書	随時提示する							
留 意 事 項	アクティブラーニングの手法を用いて授業を実施するので、毎回の講義には主体的かつ積極的に取り組み学びを深める。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 昼休み							

授 業 名		総合演習 H
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 夏期休暇中の課題及び学習の成果を確認するとともに、秋学期の授業や研究についてその流れを確認する。 (必要な準備) 夏期休暇に向けて設定した課題の達成状況を整理しておく(30分)
第2回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏休休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第3回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏休休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第4回	夏期休暇中の課題の成果を発表	(内 容) それぞれの夏休休暇中の設定課題の成果を発表し、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 発表用にパワーポイントなどの資料を準備しておく。(60分)
第5回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第6回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第7回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第8回	各自の研究(制作)を進める	(内 容) 収集した文献や資料を基に、必要に応じてゼミメンバーや教員と相談しながらそれぞれの研究活動を進める。 (必要な準備) 研究(制作)内容に必要な準備物を収集し考察・活用する。(60分)
第9回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の成果物を提示できるように用意する(30分)
第10回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の制作物を提示できるように用意する。(30分)
第11回	個別指導	(内 容) それぞれの研究状況を確認し内容などについて最終の個別指導を行う。 (必要な準備) 執筆途中のレポートまたは制作途中の制作物を提示できるように用意する。(30分)
第12回	研究レポートの作成	(内 容) 個別指導の内容を踏まえ、それぞれの研究の校正を進めレポートを仕上げる。 (必要な準備) 個別指導の指摘事項を整理し校正内容を確認しておく(60分)
第13回	研究発表	(内 容) 各自の成果物を発表プレゼンテーションし、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 成果物の準備と発表プレゼンテーションの準備(30分)
第14回	研究発表	(内 容) 各自の成果物を発表プレゼンテーションし、質疑応答を通して共有化する。 (必要な準備) 成果物の準備と発表プレゼンテーションの準備(30分)
第15回	2年間の学びの総括	(内 容) 短大2年間の学びを振り返り、卒業後の進路に生かすためにそれぞれの学びをまとめる。 (必要な準備) 2年間の学習内容を整理しておく(60分)

授業名	総合演習 I			開講学年	2年生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育2年生			
授業の概要	前期のゼミで一人ひとりの問題意識に基づいて学んだ研究テーマを教育・保育の現場で実践できるように、それぞれのフィールドを設定し、実態を把握した上で実際に教育・保育プログラムを計画する。ゼミ全体での協働的な学びを通して、幼児教育者として求められる多面的な力を伸ばす。							
学習成果到達目標	1) 幼児期の教育・保育における環境の重要性について説明することができる。 2) 人間性豊かな幼児教育者として感性や知性、表現力を身に付けることができる。 3) 自らの学びを振り返り社会貢献する自己の役割を自覚できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、担当者が作成したプリントを配付する							
参考書	適宜、紹介する							
留意事項	成績評価(100%)の内訳は、定期試験(60%)、毎授業のショートレポート(15%)、個人あるいはグループ発表(15%)、積極的な発言や出席者間の協調性など授業への貢献(10%)とする。 なお、定期試験はレポート試験とする。このレポートは毎授業時に提出をもとめるショートレポートを発展させたものとする。したがって、毎回の授業の成果がレポート試験につながっており、毎回の授業での学修が重要となる。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)							

授 業 名		総合演習 I	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	春学期のふりかきと反省 秋学期の目標を設定する	(内 容)	卒業にむけて、春学期の授業、また、実習での経験をふりかき、自らが成長した点とさらに伸ばす必要がある点を分析する。その上で、秋学期の学びの目標を明確にする。 (必要な準備) 春学期および実習のふりかきと反省
第2回	個人の研究テーマの再確認	(内 容)	卒業研究の個人々のテーマに沿って、夏休み中に進捗した状況をゼミのメンバーと共有する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第3回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 創作おもちゃに関する施設見学	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、創作おもちゃに関する施設見学をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第4回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 京都の伝統文化に触れる体験	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、伝統文化に関する体験をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第5回	幼児教育関連施設へのフィールドワーク 情報教育に関する体験	(内 容)	春学期に定めたように卒業研究で取り組むテーマを大きく3つにしぼる。そのうちの1つとして、情報教育に関する体験をおこなう。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第6回	フィールドワークの結果の整理	(内 容)	フィールドワークで得た知見をワークシートにまとめ整理する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第7回	フィールドワークで得た知見の共有	(内 容)	ゼミ内でフィールドワークで得た知見を共有し、それぞれの卒業研究につなげる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第8回	卒業研究の中間報告	(内 容)	卒業研究にまとめる内容のこれまでの成果を発表し、完成にむけた道筋をつける。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第9回	研究テーマの保育実践(創作おもちゃ)	(内 容)	創作おもちゃをテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第10回	研究テーマの保育実践(伝統文化に触れる)	(内 容)	伝統文化をテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第11回	研究テーマの保育実践(情報通信機器との付き合い方)	(内 容)	情報通信機器との付き合い方をテーマにした卒業研究をおこなうメンバーが保育者役になって、自らが考えた保育をゼミのメンバーを子ども役として実践する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第12回	保育実践記録の共有	(内 容)	ゼミ内でそれぞれが選択したテーマに沿って実践した保育の結果を共有し、それぞれの卒業研究につなげる。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第13回	卒業研究の資料作成	(内 容)	卒業研究の提出にむけた資料を作成する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第14回	卒業研究の完成と提出	(内 容)	総合演習での学びの成果を完成させ、時間内に、決められたフォーマットで提出する。 (必要な準備) 前回のショートレポート
第15回	卒業研究の発表	(内 容)	各自の研究テーマに沿った成果を発表する。 (必要な準備) 前回のショートレポート

授 業 名	総合演習 J			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	山部 泰司			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	前半は絵本の共同制作や研究課題に取り組む。 また、職業選択にむけての面談やディスカッションの時間を持つ。 後半は設定したテーマで各自が卒業研究を完成させる。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 集団で活動する力、リーダーシップの力を養う。 2) お互いの研究や表現から学び、他者の表現の良さを発見する。 3) 学んだ事、考察した事等を分かりやすく、美しくまとめることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	必要に応じて指示する。							
留 意 事 項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	学生の希望により決定し、緊急室前に掲示する。							

授 業 名		総合演習 J	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	導入	(内 容) 活動についてのディスカッション (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分程度)	
第2回	絵本作り (構想)	(内 容) 共同でつくる絵本の構想を練る (必要な準備) テーマに沿ったアイデアを考えておく(30分程度)	
第3回	絵本作り (版画の体験)	(内 容) 全体の統一感をつくる工夫 (必要な準備) 下絵を考えておく(30分程度)	
第4回	絵本作り (版作り)	(内 容) 分担するページの版をつくる (必要な準備) 版づくりに必要な材料を持参する(30分程度)	
第5回	絵本作り (絵の刷り)	(内 容) 必要枚数を刷る (必要な準備) 色彩計画を立てる(30分程度)	
第6回	絵本作り (文字の刷り)	(内 容) 文字を刷り込む (必要な準備) 文字原稿を用意しておく	
第7回	絵本作り (ページ貼り合わせ)	(内 容) ページを貼り合わせる 表紙を制作する (必要な準備) 表紙に使う布を持参する	
第8回	絵本作り (製本仕上げ)	(内 容) 表紙とページを貼り合わせて仕上げる (必要な準備) 各自が所持する絵本の完成(30分程度)	
第9回	仕事についてのディスカッションなど	(内 容) 就職活動の情報交換 (必要な準備) 将来設計について考えておく(30分程度)	
第10回	卒業研究	(内 容) テーマを決める (必要な準備) テーマを考えておく(30分程度)	
第11回	卒業研究	(内 容) テーマについての調査 (必要な準備) 資料を調べておく(30分程度)	
第12回	卒業研究	(内 容) 研究計画をたてる (必要な準備) テーマに沿った応用例を調べておく(30分程度)	
第13回	卒業研究	(内 容) レポートの作成、データ化など (必要な準備) いろいろな可能性について考えておく(30分程度)	
第14回	卒業研究	(内 容) 研究発表会 (必要な準備) 発表の準備をしておく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) 一年間の振り返り (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく(30分程度)	

授業名	総合演習 K			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Senior Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	前期のゼミで一人ひとりの問題意識に基づいて学んだ研究テーマを教育・保育の現場で実践できるように、食育を中心として、その実態を把握した上で実際に教育・保育プログラムを計画する。また、食育教育に必要な資料を制作する。							
学習成果到達目標	<p>幼児期の教育・保育に関する食育などの専門的知識や実践的指導力の育成ができる。</p> <p>人間性豊かな幼児教育者として豊かな感性や知性、表現力を身に付けることができる。</p> <p>コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け社会に貢献できる人材育成ができる</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	適宜プリントを配付する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業中の質疑応答を積極的に行い、学期中に2～3回レポートを提出してもらう。							
オフィス アワー	第1回の授業で提示する							

授 業 名		総合演習 K	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の概要と進め方。 (必要な準備)	
第2回	個人の研究テーマの確認	(内 容) 夏休み中に作成した課題の共有 (必要な準備) 作成した課題	
第3回	フィールドワーク	(内 容) 秋の食材を調べる (必要な準備) 見学先の情報収集	
第4回	フィールドワークの結果の整理	(内 容) 資料を整理して食育のための制作物を考える (必要な準備) 資料の整理	
第5回	フィールドワークで得た知見の共有	(内 容) 中間発表 (必要な準備) 制作物の提出	
第6回	グループ研究(1)	(内 容) グループで研究課題を考える (必要な準備) 資料の収集	
第7回	グループ研究(2)	(内 容) グループで研究を進める (必要な準備) 課題と方法を考えておく	
第8回	グループ研究の発表と討論	(内 容) 発表と討論 (必要な準備) 制作物がレポートの提出	
第9回	個別面談	(内 容) 個人の課題設定 (必要な準備) 課題を考えておく	
第10回	個別面談	(内 容) 個人の課題設定 (必要な準備) 課題を考えておく	
第11回	中間発表	(内 容) 課題の発表と意見交換 (必要な準備) 発表の準備	
第12回	資料収集	(内 容) 資料の再収集 (必要な準備) 資料の整理	
第13回	個人の発表と討論(1)	(内 容) 発表と討議 (必要な準備) 発表をまとめておく	
第14回	個人の発表と討論(2)	(内 容) 発表と討議 (必要な準備) 発表をまとめておく	
第15回	まとめ	(内 容) 1年間を振り返り、レポートを作成する (必要な準備) 1年間の総まとめをしておく	

授業名	保育者論 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Child Care Worker			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	西川 由紀子			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	保育者の役割を、守るべき倫理や制度的位置づけを解説することによって理解し、さらに、その専門性が磨かれるためにどのようなことが求められるか、どのような人たちとの連携が行われているのかを解説していく。							
学習成果到達目標	1) 保育者の役割を理解する 2) 保育者が専門性を高めるために必要なことを理解する 3) 保育者がどんな人たちとの連携しているかを理解する							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	矢藤誠慈郎・天野珠路編『保育者論』中央法規							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設ける。							

授 業 名		保育者論 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	保育者の役割	(内 容) 保育者の役割を解説する (必要な準備) 第1講を読んでくる(30分)	
第2回	保育者の倫理	(内 容) 全国保育士会倫理綱領の解説を行う (必要な準備) 第2講を読んでくる(30分)	
第3回	保育士と幼稚園教諭の特性	(内 容) 保育士と幼稚園教諭の職務について解説する (必要な準備) 第3講を読んでくる(30分)	
第4回	養護と教育の関係	(内 容) 養護と教育の関係を解説する (必要な準備) 第4講を読んでくる(30分)	
第5回	保育者としての資質と能力	(内 容) 保育者としての資質と能力をどう考えるかを解説する (必要な準備) 第5講を読んでくる(30分)	
第6回	専門的な知識・技術と判断	(内 容) どのような専門的な知識や技術が必要とされ、どのような判断を要求されるかを解説する (必要な準備) 第6講を読んでくる(30分)	
第7回	保育におけるPDCAサイクル	(内 容) 保育においてPDCAサイクルがどのように機能しているかを解説する (必要な準備) 第7講を読んでくる(30分)	
第8回	保育課程と保育の実際	(内 容) 保育課程と保育の実際の間を解説する (必要な準備) 第8講を読んでくる(30分)	
第9回	保育者の自己評価	(内 容) 保育者の自己評価について解説する (必要な準備) 第9講を読んでくる(30分)	
第10回	保育者連携	(内 容) 保育者連携について解説する (必要な準備) 第10講を読んでくる(30分)	
第11回	専門機関との連携	(内 容) 地域の療育施設との連携などさまざまな連携について解説する (必要な準備) 第11講を読んでくる(30分)	
第12回	保護者との連携	(内 容) 保護者との連携について解説する (必要な準備) 第12講を解説する(30分)	
第13回	家庭的保育	(内 容) 家庭的保育について解説する (必要な準備) 第13講を読んでくる(30分)	
第14回	保育者の専門性の向上	(内 容) 保育者がどのようにして専門性を向上させていくかを解説する (必要な準備) 第14講を読んでくる(30分)	
第15回	保育という仕事の魅力	(内 容) 保育という仕事の魅力を解説する (必要な準備) これまでの授業で学んだことを振り返っておく(30分)	

授 業 名	教育課程総論 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Outline of Curriculum			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	<p>1) 幼児教育の基本を学び、幼稚園・認定こども園・保育所の共通した部分と異なる部分について説明する。</p> <p>2) 各機関・施設での保育や教育の課程編成について理解し、指導計画を考える。</p> <p>3) 保育や教育課程の編成原理をふまえ、計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルにもとづいた評価プロセスを説明する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育者の立場から、幼稚園、認定こども園、保育所における教育課程や保育課程について説明できる。</p> <p>2) 年間計画を想定したうえで、月案や週案など、長期的な保育指導計画について作成しようとする意欲を持つことができる。</p> <p>3) 活動計画を評価するための視点を提示することができる</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (計画する力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	京都教育大学大学附属幼稚園編『教育課程・指導計画』							
参 考 書	文部科学省編「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省編「保育所保育指針解説書」 内閣府・文部科学省・厚生労働省編「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」							
留 意 事 項	テキストにある事例をもとに授業を進めるため、毎回必ず持参すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で告知							

授 業 名		教育課程総論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション：子どもの現代的な教育課題	(内 容) 学校における教育課程の概要 (必要な準備) 「カリキュラム」について調べておくこと	
第2回	幼児教育の基本(1)：遊びを通しての総合的な指導	(内 容) 教育課程の編成原理 (必要な準備) 「幼稚園教育要領」より遊びの効用について理解しておく	
第3回	幼児教育の基本(2)：環境を通して行う教育	(内 容) 経験カリキュラムと教科カリキュラムの系譜 (必要な準備) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」より環境構成の箇所を読んでおくこと	
第4回	幼稚園における教育：学校教育としての幼稚園	(内 容) 「幼稚園教育要領」「学習指導要領」 (必要な準備) 「幼稚園教育要領解説」より幼稚園の目的・意義について理解しておく	
第5回	保育所における保育：「養護と教育の一体性」	(内 容) 「児童福祉法」 (必要な準備) 「保育所保育指針」より保育所の目的・意義について理解しておく	
第6回	認定こども園における保育：「子育て支援機能」	(内 容) 子ども・子育て関連三法 (必要な準備) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」より現代の子育て支援機能について理解する	
第7回	課程編成と指導計画(1)：幼稚園の場合	(内 容) 社会に開かれた教育課程、育成すべき資質・能力 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より育成すべき資質・能力について理解する	
第8回	課程編成と指導計画(2)：幼稚園の場合	(内 容) 「深い学び」としてのアクティブ・ラーニング (必要な準備) アクティブ・ラーニングについてあらかじめ調べておくこと	
第9回	課程編成と指導計画(3)：保育所の場合	(内 容) 保育課程の編成と指導計画の具体的な筋道 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より保育課程の編成について調べておく	
第10回	課程編成と指導計画(4)：認定こども園の場合	(内 容) 「子育て支援機能」の実際 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より「子育て支援機能」について調べておく	
第11回	幼児教育の評価の類型および第三者評価	(内 容) ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より評価の分類について調べておく	
第12回	事例研究(1)：幼稚園の場合	(内 容) 健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域の理解 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より5つの領域について調べておく	
第13回	事例研究(2)：保育所の場合	(内 容) 保育所保育指針と指導計画 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より保育所における指導計画について読んでおくこと	
第14回	事例研究(3)：認定こども園の場合	(内 容) 社会に開かれた教育課程 (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より、認定こども園でのカリキュラムについて理解する	
第15回	まとめ 教育計画について考える	(内 容) 3年間のカリキュラムの計画立案について、どのような点に注目しなければならないのかについて考える (必要な準備) 『教育課程・指導計画』より、長期的な教育計画について考える	

授業名	保育内容総論 a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Outline of Child Care			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	鈴木 えり子			対象学生	幼児教育1ya～ye・yf～yj			
授業の概要	乳幼児保育（教育）では、幼稚園教育要領・保育所保育指針が基本となり、保育内容のねらい・内容を理解し、実践することが求められる。つまり、子どもの生活＝遊びを通して、保育者が行うべき養護的内容と子ども自身の教育的側面としての「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域があることを理解する。また、養護と教育が相互に関連をもちながら総合的に展開されるものであること及び5領域の保育内容のねらいと内容を知り、実際の保育における具体的な援助の内容や方法について理解する。保育活動の総合的指導を視野に入れて実践し発表を行う。							
学習成果到達目標	1) 保育内容の5領域についてねらいと内容を理解する。 2) 保育における指導計画の意義について理解する。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『保育内容・保育方法総論の理論と活用』上野恭裕編著 保育出版社							
参考書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館・『幼稚園教育要領解説』文部科学省編 フレーベル館							
留意事項	保育実践活動を実施する。材料など指定されたものを忘れずに必ず各自で用意し持ってくること。							
オフィス アワー	研究室に掲示しますので確認してください							

授 業 名	保育内容総論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 「保育内容」とは何かをイメージする (必要な準備) シラバスを読んでおく(10分)
第2回	「保育内容」の定義	(内 容) 「保育」と「教育」の違い、「保育内容」「領域」と「教科」との違いから「保育内容」を理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでおく(30分)
第3回	保育活動とは	(内 容) 保育所と幼稚園の保育内容の相違点を学ぶ (必要な準備) テキスト第2章を読んでおく(30分)
第4回	保育内容の歴史	(内 容) 戦前・戦後の保育内容を知る (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(30分)
第5回	保育内容と保育方法の関連	(内 容) 個と集団、道徳性から保育内容を考える (必要な準備) テキスト第8章を読んでおく(30分)
第6回	保育活動と遊びの関連	(内 容) 遊びとは何か、遊びの重要性、保育者の援助について理解する (必要な準備) テキスト第10章を読んでおく(30分)
第7回	保育内容「環境」領域と保育活動	(内 容) 保育内容「環境」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 指示された材料を準備しておく
第8回	保育内容「健康」・「人間関係」と保育活動	(内 容) 保育内容「健康」「人間関係」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) テキスト第5章を読んでおく(30分)
第9回	保育内容「言葉」と保育活動 1	(内 容) 保育内容「言葉」の領域と保育活動について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 絵本を選んでくる(10分)
第10回	保育内容「言葉」と保育活動 2	(内 容) 絵本の読み聞かせを实践する (必要な準備) 絵本を選んで下読みをしておく(20分)
第11回	保育内容「表現」と保育活動 1	(内 容) 保育内容「表現」の領域—保育活動(造形)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 造形関係の材料を準備してくる(10分)
第12回	保育内容「表現」と保育活動 2	(内 容) 保育内容「表現」の領域—保育活動(リズム)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 動きやすい服装で参加する
第13回	保育内容「表現」と保育活動 3	(内 容) 保育内容「表現」の領域と保育活動(音楽)について理解する、活動や内容のとらえ方、ねらいを理解する (必要な準備) 活動を考えておく
第14回	遊びを通しての総合的指導	(内 容) 保育活動の発表をする (必要な準備) 発表グループで準備練習しておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 保育内容および領域のねらい・内容について理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の5領域を読んでおく(60分)

授 業 名	児童福祉 a・b		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Child Welfare		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	山川 宏和		対 象 学 生	幼児教育1ya~ye・yf~yj				
授業の概要	1. 少子化・保育・虐待など児童問題について 2. 現代の子どもの生活について 3. 諸外国の児童福祉について 4. 児童福祉の法制度について							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (65 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (35 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	赤木正典・流王治郎 編著 「児童家庭福祉論 第2版」[建帛社]							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	出席とレポートを重視する。積極的な発表も評価の対象となる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。							

授 業 名		児童福祉 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	現代社会と子ども	(内 容) 人口減少社会 (必要な準備) テキスト1章を参照しておく	
第2回	児童の権利保障	(内 容) コルチャック、子どもの権利条約について (必要な準備) テキスト2章を参照しておく	
第3回	児童福祉の歴史	(内 容) 日本・欧米の児童福祉史 (必要な準備) テキスト2章を参照しておく	
第4回	児童福祉法について 児童相談所	(内 容) 児童福祉六法、行政機関について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(内 容) 児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(内 容) 児童福祉法と児童虐待防止法について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第7回	児童福祉法について 2012～2016年の改正	(内 容) 近年の児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく	
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく	
第10回	児童福祉の専門職について	(内 容) 児童福祉に従事する専門職について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第11回	保育支援と福祉について	(内 容) 日本と諸外国の保育政策・サービスについて (必要な準備) テキスト9章を参照しておく	
第12回	母子保健について	(内 容) 妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第13回	社会的養護について	(内 容) 里親ケアの実際について (必要な準備) テキスト10章を参照しておく	
第14回	障がい児の福祉について	(内 容) 障がい児の現状と福祉サービスについて (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第15回	児童の健全育成について	(内 容) 児童館・児童厚生員について (必要な準備) テキスト5章を参照しておく	

授業名	養護原理 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Corporate Parenting			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山川 宏和			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	保育士として必要な社会的養護の基本原則と知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。 1．社会的養護の概念と歴史的経過について 2．社会的養護体系について 3．施設によるケアについて 4．里親によるケアについて							
学習成果到達目標	1) 社会的養護の現状や、入所施設や里親に関する制度について説明できる。 2) 乳児院や児童養護施設等に入所している児童の現状が理解できる。 3) 社会的養護を必要とする保護者について、現状と支援が理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	吉田明弘編著 『保育士のための社会的養護』 [八千代出版]							
参考書	随時指示する。							
留意事項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。							
オフィス アワー	3号館に掲示してあるオフィスアワーを参照。							

授 業 名		養護原理 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 社会的養護の現状について (必要な準備) 事前にシラバスをよく読んでおくこと
第2回	児童虐待の理解	(内 容) 被虐待児の現状について (必要な準備) 児童虐待に関心をもってニュースなどを見る
第3回	家庭的養護について 里親	(内 容) 里親ケアの登録・委託・手当について (必要な準備) テキスト2章を読んでおく
第4回	家庭的養護について 里子	(内 容) 里子の心理、当事者団体について (必要な準備) テキスト2章を読んでおく
第5回	特別養子縁組	(内 容) 特別養子縁組の実際について (必要な準備) テキストp.138-139を読んでおく
第6回	施設養護 乳児院	(内 容) 乳児院の現状と課題について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第7回	施設養護 虐待対応	(内 容) 被虐待児の支援について (必要な準備) テキスト第7章第3節を読んでおく
第8回	施設養護 親子分離	(内 容) 児童養護施設に入所した家族について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第9回	施設養護 児童養護施設	(内 容) 児童養護施設のケアについて (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第10回	保護処分 少年院	(内 容) 少年非行と家庭裁判所について (必要な準備) 関心をもってニュースなどを見る
第11回	保護処分 保護観察	(内 容) 児童自立支援施設、保護観察について (必要な準備) 関心をもってニュースなどを見る
第12回	施設養護 自立援助ホーム	(内 容) 自立援助ホームの役割と機能について (必要な準備) テキスト5章を読んでおく
第13回	施設養護 障害児通所支援	(内 容) 障害児通所支援施設を利用する児童について (必要な準備) 障害の定義を振り返っておく
第14回	アタッチメント障害	(内 容) アタッチメント(愛着)障害について (必要な準備) 保育における愛着を復習しておく
第15回	施設養護 児童心理治療施設	(内 容) 児童心理治療施設に入所する児童について (必要な準備) 児童心理治療施設の歴史を調べる

授業名	養護原理 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Corporate Parenting			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	浦田 雅夫			対象学生	幼児教育1yf~yj			
授業の概要	<p>保育士として必要な社会的養護の基本原則と知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。</p> <p>1．社会的養護の概念と歴史的経過について 2．社会的養護体系について 3．施設によるケアについて 4．里親によるケアについて</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 社会的養護の概念と歴史的経過、種類と役割について理解することができる。</p> <p>2) 乳児院や児童養護施設等に入所してくる児童の特徴や、背景を総合的に理解することができる。</p> <p>3) 里親によるケアの現状と課題を理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『保育士のための社会的養護』吉田明弘編 八千代出版							
参考書	随時指示する。							
留意事項	出席を怠らないこと。学習内容の順番は事前説明の上、変更することがある。							
オフィスアワー	非常勤講師のため授業外の質問はメールにて対応。初回講義時にメールアドレスを伝える。							

授 業 名		養護原理 b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業概要、計画、評価などについて説明する。 (必要な準備) 事前にシラバスをよく読んでおくこと。
第2回	今日の子どもを取り巻く状況	(内 容) 子どもへの貧困、要保護児童などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章を読んでおくこと。
第3回	社会的養護の歴史的経過	(内 容) 石井十次の養育観と実践について学ぶ (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第4回	子ども観の変遷と権利擁護の視点	(内 容) 権利の主体としての子ども観について考える。 (必要な準備) 子どもの権利条約を事前に読んでおくこと。
第5回	施設養護の基本原則	(内 容) ケアの基本原則を学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第6回	施設養護の基本原則と実際	(内 容) ケアの展開過程について学ぶ (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第7回	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設などについて	(内 容) 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第8回	児童自立支援施設などについて	(内 容) 児童自立支援施設などについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第9回	障害児・者施設などについて	(内 容) 障害のある子どもたちへのケアを考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第10回	施設養護と権利侵害	(内 容) 施設内虐待について考える。 (必要な準備) 各自でメディアから情報を集める。
第11回	小規模ケアの実際	(内 容) 小規模ケアについて考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第12回	里親による養育	(内 容) 里親による養育の現状と課題を学ぶ。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第13回	関係機関との連携	(内 容) 児童相談所や市町村などとの連携を考える。 (必要な準備) テキスト該当箇所を読んでおくこと。
第14回	社会的養護の今日的課題	(内 容) 社会的養護の今日的課題を整理する。 (必要な準備) 事前に指示する課題に取り組むこと。
第15回	社会的養護の近未来	(内 容) 今後の社会的養護のあり方について考える。 (必要な準備) 事前に指示する課題に取り組むこと。

授業名	保育の心理学 a			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Child Care Psychology			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	下温湯 まゆみ			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	保育の心理学 で学んだ内容を演習科目としてさらに深めていく。発達心理学の基礎知識を用いて、子ども理解を深め、遊びや生活を通じた学びの過程を理解する。幼児教育・保育の具体的な事例やビデオ映像などをもとに、子どもや保育について学生自身が考え実践力を身につけられるように、演習を取り入れていく。							
学習成果到達目標	1) 発達心理学の基礎知識を用いて子ども理解をすすめ、心身の発達と保育実践を関連づけて理解することができる。 2) 乳幼児期に適した、遊びや生活を通じた学びの過程を理解することができる。 3) 保育における発達援助について学び、実践に活かすヒントを得ることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	『保育の心理学 演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助』 井戸ゆかり編著 萌文書林							
参考書	随時紹介する。							
留意事項	自分が保育者だったらどのように考え対応するかを想定しながら、主体的に学んでほしい。							
オフィス アワー	金曜日12:30～14:00(変更の場合は、研究室に日時を貼付する。)							

授 業 名		保育の心理学 a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 保育の心理学 と の 関 連 に つ い て 授 業 の ね ら い と 進 め 方 (必要準備) 保育の心理学 の 復 習 を し て お く 。 (60分)
第2回	保育における発達のとらえ方	(内 容) 子 ども 理 解 に 必 要 な 発 達 の 把 握 の 方 法 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 1 (30分)
第3回	個人差に応じた保育	(内 容) 個 人 差 の 基 本 的 な 考 え 方 と 個 人 差 に 応 じ た 保 育 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 2 (30分)
第4回	身体感覚を伴う経験と環境の相互作用	(内 容) 身 体 感 覚 や 知 覚 の 発 達 と 環 境 の 相 互 作 用 を 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 3 (30分)
第5回	環境としての保育者と子どもの発達	(内 容) 人 的 環 境 と し て の 保 育 者 が 子 ども や 保 護 者 に 及 ぼ す 影 響 を 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 4 (30分)
第6回	子ども相互のかかわりと関係づくり	(内 容) 社 会 性 ・ 道 徳 心 の 発 達 を 復 習 し 、 子 ども の 関 係 づ く り の 視 点 を 培 う 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 5 (30分)
第7回	自己主張と自己抑制	(内 容) 自 己 主 張 と 自 己 抑 制 の 発 達 や ト ラ ブ ル 対 応 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 6 (30分)
第8回	子ども集団と保育の環境	(内 容) 集 団 の 育 ち と ク ラ ス 経 営 を 意 識 し た 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第1章 - 7 (30分)
第9回	ワーク1 自分を知らう	(内 容) ワークを通して自分自身を振り返る。 (必要準備) 第1回から第4回の内容をまとめる。(60分)
第10回	ワーク2 共通理解を図るために	(内 容) ワークを通して人間関係作りについて考える。 (必要準備) 第5回から第8回の内容をまとめる。(60分)
第11回	生涯にわたる生きる力の基礎を培う1 生きる力とは	(内 容) 生 涯 発 達 の 視 点 か ら み た 生 き る 力 に つ い て 理 解 す る 。 (必要準備) テキスト予習 第2章 - 3の前半 (30分)
第12回	生涯にわたる生きる力の基礎を培う2 保育者の役割	(内 容) 生 き る 力 を 育 む た め の 保 育 者 の 役 割 に つ い て 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第2章 - 3の後半 (30分)
第13回	基本的生活習慣の獲得と発達援助	(内 容) 基 本 的 生 活 習 慣 の 獲 得 の 重 要 性 と 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 1 第11・12回の内容をまとめる。(60分)
第14回	自己の主体性の形成と発達援助	(内 容) 子 ども の 主 体 性 の 形 成 を 育 む 保 育 者 の 援 助 に つ い て 学 ぶ 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 2 (30分)
第15回	発達の課題に応じた援助やかかわり	(内 容) 事 例 を も と に 子 ども 理 解 を す す め 、 個 別 の 対 応 に つ い て 考 え る 。 (必要準備) テキスト予習 第3章 - 3 (30分)

授 業 名	保育の心理学 b		開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位		
英 文 名	Child Care Psychology		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	西川 由紀子		対 象 学 生	幼児教育1yf~yj				
授業の概要	子どもの発達を解説した上で、保育実践でその時期の子どもにどんな保育が行われているかを実践現場の資料で説明してゆく。子どもたちが集団の中でどんな力を培っていくのか、子どもたちの発達上のつまづきがみられたときどんな支援が必要なのかも解説したい。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 生後6年間の子どもの発達を理解する。 2) 保育のなかでどのように子どもたちの発達を援助しているかを理解する。 3) 集団保育の中で気になる子どもへの支援をどのようにしているかを理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	西川由紀子『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 西川由紀子『かわりあって育つこどもたち』(かもがわ出版)							
参 考 書								
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		保育の心理学 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもの発達を学ぶ意義	(内 容) 保育者になるために子どもの発達を学ぶことにどんな意義があるかを解説する (必要な準備) テキスト 1章を読んでくる(30分)	
第2回	0歳児の発達	(内 容) 0歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 2章3章を読んでくる(30分)	
第3回	0歳児の保育の実際	(内 容) 0歳児クラスの保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 2章3章を読んでくる	
第4回	1歳児の発達	(内 容) 1歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第5回	1歳児の保育	(内 容) 1歳児クラスの保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第6回	2歳児の発達	(内 容) 2歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第7回	2歳児の保育	(内 容) 2歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第8回	3歳児の発達	(内 容) 3歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第9回	3歳児の保育	(内 容) 3歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第10回	4歳児の発達	(内 容) 4歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第11回	4歳児の保育	(内 容) 4歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第12回	5歳児の発達	(内 容) 5歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 5章を読んでくる(30分)	
第13回	5歳児の保育	(内 容) 5歳児の保育場面のビデオをみて、発達と保育の解説を行う (必要な準備) テキスト 5章を読んでくる(30分)	
第14回	気になる子への対応(乳児クラス)	(内 容) 乳児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (必要な準備) テキスト 4章、5章、 2章を読んでくる(30分)	
第15回	気になる子への対応(幼児クラス)	(内 容) 幼児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (必要な準備) テキスト 3.4 . 5章を読んでくる(30分)	

授業名	小児保健 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	中村 洋子			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	子どもは未来へつながり、子どもは未来の社会をつくる。その初期段階としての乳幼児期からだや心を健康に保つために、保育者や保護者は正しい知識と実践が大切となる。子ども時代を健康に過ごす、また健康増進するために、医学的知識を中心に健康・病気の予防を学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 胎児期、乳幼児期、学童期の子どもの身体の仕組みや精神的発達を理解する 2) どのように支援援助したらいいのか等、基本となる生活や対応の仕方等の知識を学ぶ。 3) 医学的基礎知識を理解し、保育・育児の場で対応できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	子どもの保健(診断と治療社)							
参考書	「図表で学ぶ子どもの保健」(建帛社)「大人が知らない子どもの身体の不思議」(講談社)							
留意事項	子供の健康については小児保健や医学の知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと							
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいるときは対応します。							

授 業 名		小児保健 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス・小児保健の目的と意義	(内 容) 本講義の目的と意義を理解する (必要な準備)	
第2回	小児保健の基本とは	(内 容) 基本となる小児の特徴やからだの仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第3回	胎児の成長と母体の健康	(内 容) 胎児の発育状況と母体の健康について (必要な準備) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと(30分)	
第4回	子供の身体発育と影響する因子	(内 容) 身体発育状況の推移・影響を及ぼす因子について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第5回	身体発育と評価方法	(内 容) 身体計測と評価方法について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第6回	からだの生理機能(ホメオスタシス等基本的生理機能)	(内 容) 基本的なからだの機能について、基礎を学ぶ。 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第7回	からだの生理機能(呼吸器・循環器)	(内 容) 呼吸器・循環器の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第8回	からだの生理機能(感覚器・排泄器)	(内 容) 感覚器・排泄器の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第9回	からだの生理機能(消化器・ホルモン等)	(内 容) 消化器・ホルモン系の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第10回	子どもの運動発達(新生児期・乳児期)	(内 容) 新生児期・乳児期の運動発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第11回	子どもの運動発達(幼児期・学童期)	(内 容) 幼児期・学童期の運動発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第12回	子どもの精神発達(神経系)	(内 容) 脳・自律神経等の仕組みと発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第13回	子どもの精神発達(言葉と情緒)	(内 容) 子どもの言葉や情緒の発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第14回	新生児・低出生体重児	(内 容) 新生児・低出生体重児の特徴と育て方 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)	
第15回	子どもを取り巻く生活環境	(内 容) 子どもを取り巻く生活環境の現状・全体的なまとめ (必要な準備) 教科書・配布資料を見直す(40分)	

授業名	小児保健 b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	渡邊 美也子			対象学生	幼児教育1yf~yj			
授業の概要	<p>1) 私たちはどのように成長してきたのかを振り返ることにより、小児の身体や心の発達を理解する。</p> <p>2) 将来“子どもの健やかな発達を支える一員”となるために、必要な知識や自分なりの“子ども観”を考える。</p> <p>3) 保育や健診、療育現場でのエピソードを交えながら、子どもの心身の保健について医学的・臨床発達心理学的に理解する</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どもの発達を支え、見守るさまざまな環境について考える。</p> <p>2) 子どもの身体発達についての知識を学び、保育や子育てに結びつけて理解する。</p> <p>3) 子どもの精神発達について学び、近年の社会状況の中での保育を考える。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	「よくわかる子どもの保健」第3版 竹内義博、大矢紀昭編 (ミネルヴァ書房)							
参考書	「こどもの保健 演習ブック」 松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房)							
留意事項	常に身の回りで起きている子どもの発達や保健に関するニュースや情報に気づき、興味や関心を持つ。 知識と自分の経験(将来も含む)を必ず結びつけて理解する。							
オフィス アワー	講義の後、申し出に応じて時間設定する。							

授 業 名		小児保健 b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス/子どもの保健という学問	(内 容) 本講義の目的と概要を理解する。 (必要な準備)
第2回	子どもの健康と保育	(内 容) 健康水準、保育、保健活動、福祉サービスについて学ぶ。 (必要な準備) テキストp2～11を読んでおく。(30分)
第3回	母子保健	(内 容) 母子保健事業、保育所との連携について学ぶ。 (必要な準備) テキストp12～15を読んでおく。(30分)
第4回	身体発育と保健(発育の原則と測定)	(内 容) 身体発育の原則、測定について学ぶ。 (必要な準備) テキストp16～p27を読んでおく。(30分)
第5回	身体発育と保健(影響する要因)	(内 容) 身体発育のバランス、影響要因について学ぶ。 (必要な準備) テキスト p28～p33を読んでおく。(30分)
第6回	生理機能の発達と保健(自律神経・体温 他)	(内 容) 自律神経、循環・消化機能の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp33～p45を読んでおく。(30分)
第7回	生理機能の発達と保健(排泄・睡眠 他)	(内 容) 排泄、睡眠、感覚器官の発達、免疫について学ぶ。 (必要な準備) テキストp46～p53を読んでおく。(30分)
第8回	運動機能の発達と保健	(内 容) 新生児、乳児、幼児の運動機能の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp54～p61を読んでおく。(30分)
第9回	精神機能の発達と保健(言語・社会性・情緒)	(内 容) 言語、社会性、情緒の発達について学ぶ。 (必要な準備) テキストp62～p67を読んでおく。(30分)
第10回	精神機能の発達と保健(発達の評価・影響要因)	(内 容) 発達の評価(発達検査)、影響要因について学ぶ。 (必要な準備) テキストp68～p71を読んでおく。(30分)
第11回	子どもの精神保健(心身症・行動上の問題)	(内 容) 精神保健とは、心身症、行動上の問題について学ぶ。 (必要な準備) テキストp72～p81を読んでおく。(30分)
第12回	子どもの精神保健(発達障害を抱える子ども)	(内 容) 発達障害とその対応、保護者への寄添いについて学ぶ。 (必要な準備) テキストp82～p85を読んでおく。(30分)
第13回	子どもの精神保健(慢性疾患の子どものかかえる問題)	(内 容) 慢性疾患、育児環境と精神保健について学ぶ。 (必要な準備) テキストp86～p89を読んでおく。(30分)
第14回	子どもの精神保健(虐待・親のメンタルヘルス)	(内 容) 虐待、地域精神保健活動について学ぶ。 (必要な準備) テキストp90～p97を読んでおく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 総復習。振り返って考える。 (必要な準備) 関心を持ったテーマについて考えておく。(30分)

授業名	小児保健 a			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	幼児教育1ya～ye			
授業の概要	子どもが健康な体と健全な心をもって発育するためには、保健に関する知識や実践的技術が必要である。さらに、子どもの保健は、健康を増進する積極的な活動であり、医学の知識だけでなく日常生活で実践されるものである。すなわち、子どもの心身の問題や栄養、生活、母子関係、環境、社会の制度と施策などと関連づけて学ぶ。また、子どもにとって良い環境や感染症などの病気等についての基本的知識について学ぶ							
学習成果到達目標	日常生活の中や、保育の現場での子どもの保健に関する知識を理解し保健の実践ができる。 医学的基礎知識が理解できる。 子どもの健康増進対策ができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	子どもの保健 巷野悟朗編 診断と治療社							
参考書	授業中に紹介する。							
留意事項								
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		小児保健 a
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	母子保健の現状	(内 容) 子どもの出生率と死亡率 (必要な準備) 教科書p. 239 246を読んでおく
第2回	母子保健行政	(内 容) 母子保健対策と児童福祉対策 (必要な準備) 教科書p. 247 267を読んでおく
第3回	子どもの食事	(内 容) 子どもの栄養の特徴、栄養生理など (必要な準備) 教科書p. 65 73を読んでおく
第4回	乳汁栄養法	(内 容) 母乳栄養の人工栄養と混合栄養法特徴 (必要な準備) 教科書p. 73 - 83を読んでおく
第5回	離乳の意義	(内 容) 離乳の方法 (必要な準備) 教科書p. 83 86を読んでおく
第6回	幼児期、学齢、少年期の栄養	(内 容) 栄養の特徴と問題点 (必要な準備) 教科書p. 86 91を読んでおく
第7回	健康と病気、異常	(内 容) 健康の概念、病気の症状と看護 (必要な準備) 教科書p. 158 - 165を読んでおく
第8回	免疫とアレルギー、むし歯	(内 容) 免疫の成り立ち、アレルギーの原因と対応。むし歯の予防 (必要な準備) 教科書p. 166 171を読んでおく
第9回	事故と応急処置	(内 容) 子どもの事故の原因や応急処置 (必要な準備) 教科書p. 172 187を読んでおく
第10回	感染症と予防接種	(内 容) 感染症のに関する法律と予防接種 (必要な準備) 教科書p. 188 200を読んでおく
第11回	乳幼児期の病気	(内 容) ウイルス感染症と細菌感染症 (必要な準備) 教科書p. 201 207を読んでおく
第12回	発育と栄養障害、アレルギーの病気、消化器の病気	(内 容) 特徴と対応 (必要な準備) 教科書p. 207 216を読んでおく
第13回	呼吸器の病気、循環器の病気、血液の病気 泌尿器と生殖器の病気	(内 容) かぜ、先天性心疾患、貧血など (必要な準備) 教科書p. 217 222を読んでおく
第14回	代謝の病気、内分泌の病気、皮膚の病気など	(内 容) 糖尿病、クレチン病、アトピー性皮膚炎など (必要な準備) 教科書p. 222 230を読んでおく
第15回	悪性腫瘍など	(内 容) 脳腫瘍や川崎病など (必要な準備) 教科書p. 231 238を読んでおく

授 業 名	小児保健 b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 美也子			対 象 学 生	幼児教育1yf～yj			
授業の概要	<p>1) 子どもの疫病の特徴について理解し、保育の場での必要な対応を学ぶ。 2) 子どもの健やかな発育と安全な暮らしを保障するための環境や予防を考える。 3) 保育士自身も心身ともに元気に子ども達との暮らしを楽しむことについて考える。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どもの発達と疾病についての基礎知識を理解する。 2) 子どもの病気の看護、予防や増進のための対応を学ぶ。 3) 保育の場で生じる私たち自身のストレス、自分に合ったメンタルヘルスを考える。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	「小児保健」で使用したもの							
参 考 書	「子どもの保健 演習ブック」 松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房)							
留 意 事 項	「小児保健」で学んだ“子どもの心身の発達”や“精神保健”を復習する。 常に実際の子どものイメージや自分の経験と結びつけて想像しながら学ぶ。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義の後、申し出に応じて時間設定する。							

授業名	小児保健 b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健の意義	(内容) 小児保健の目的と意義・授業の進め方について理解する。 (必要な準備)
第2回	子どもの生活と健康(乳児期の暮らし)	(内容) 乳児、1.2歳児、3.4.5歳児の生活、発達の特徴について学ぶ。 (必要な準備) テキストp98～p109を読んでおく。(30分)
第3回	子どもの生活と健康(家庭と集団)	(内容) 家庭生活の現状と集団(保育、教育)生活について学ぶ。 (必要な準備) テキストp110～p115を読んでおく。(30分)
第4回	子どもの疾病と保育(呼吸器・循環器、消化器)	(内容) 子どもの疾病の特徴、各器官の疾病と症状、重要な感染症について学ぶ。 (必要な準備) テキストp116～p127を読んでおく。(30分)
第5回	子どもの疾病と保育(他器官、神経系、整形外科)	(内容) 中枢神経系疾患、アレルギー疾患、その他の疾患について学ぶ。 (必要な準備) テキストp128～p143を読んでおく。(30分)
第6回	子どもの疾病と保育(保育の場、予防感染)	(内容) 乳幼児突然死症候群、保育の場での感染症、予防接種について学ぶ。 (必要な準備) テキストp144～p151を読んでおく。(30分)
第7回	子どもの疾病と保育(身体障がい、健康診査)	(内容) 身体障がい、健診の目的について学ぶ。 (必要な準備) テキストp152～p155を読んでおく。(30分)
第8回	子どもの疾病と保育(支援体制、療育)	(内容) 疾病異常と支援体制、医療制度について学ぶ。 (必要な準備) テキストp156～p157を読んでおく。(30分)
第9回	保育環境整備と衛生管理	(内容) 保育環境、衛生管理、感染症への対応と予防のための対策について学ぶ。 (必要な準備) テキストp158～p161を読んでおく。(30分)
第10回	子どもの事故の特徴と安全防止	(内容) 事故と応急処置、事故防止について学ぶ。 (必要な準備) テキストp162～p169を読んでおく。(30分)
第11回	災害への備へ	(内容) 災害への備え、救急措置について学ぶ。 (必要な準備) テキストp170～p175を読んでおく。(30分)
第12回	保健活動(計画)、連携と組織での取り組み	(内容) 保健計画の作成、活用、評価、健康及び安全の実施について学ぶ。 (必要な準備) テキストp174～p179を読んでおく。(30分)
第13回	救急時の初期対応	(内容) 症状の訴え、具体的な対応について学ぶ。 (必要な準備) テキストp180～p201を読んでおく。(50分)
第14回	保育士としての心身の健康	(内容) 自己覚知、保育士として予想されるストレスと対応について考える。 (必要な準備) 自分の長所、短所について考えてみる。(30分)
第15回	まとめ	(内容) 小児保健、を通しての総復習 (必要な準備) 関心の持てた分野についてまとめる。(30分)

授業名	音楽 a・b・c・d			開講学年	1年生	単位数	1単位	
英文名	Music			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	坂口 みゆき・小川 隆昭・阿久津 啓・今井 順子・遠藤 玲子・岡田 千秋・加藤 雅子・北村 陽子・木島 佳都子・小鍛治 弘美・権田 志帆子・千田 浩美・高科 絵美代・玉井 明・永峯 翠子・内藤 規子・福永 圭子・松村 佳			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を身につけるため、ピアノ（教則本）及び子どものうたの弾き歌いレッスン（個別指導）、子どもの歌の歌唱指導と基礎的な音楽理論の講義（音楽専門教員による集団指導）を行う。							
学習成果到達目標	1) 基礎的な音楽理論を理解できる。 2) 基礎的なピアノ演奏技術を習得することができる。 3) 基本的な歌唱法を習得することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的基礎能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テキスト	「バイエルピアノ教則本」バイエル著（音楽之友社）他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。							
参考書	使用しない。							
留意事項	バイエルと「子どものうた」の弾き歌いは、レッスンのステップ表（1回目の授業で配布）に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップ9（全16ステップ）まで終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業は1週間の間に練習してきた成果をチェックする場である。実習や幼稚園・保育所の就職試験に向けて、しっかり練習する必要がある。							
オフィスアワー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）小川（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示） 坂口・小川以外の教員（担当授業終了後に実施） * 坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授業名	音楽 a・b・c・d	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) レッソンの進め方についての説明・担当教員の紹介・各自のピアノ レッスン曲の決定 (必要な準備) ピアノ初心者及びバイエル練習中の学生は「バイエル」を持参する。 バイエルを終了している学生は、現在練習中の楽譜、または最後にレッスンを受けた楽譜を持参する。
第2回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第5回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第6回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第7回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第8回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「こどもの歌」の歌唱	(内 容) [ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「こどもの歌」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第15回	声楽のまとめ	(内 容) 「こどものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (必要な準備) 「こどものうた」の歌唱練習及びピアノ試験曲の練習(1日20分～30分以上)

授 業 名	音楽 a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Music			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・阿久津 啓・今井 順子・遠藤 玲子・岡田 千秋・加藤 雅子・木島 佳都子・北村 陽子・小銀治 弘美・権田 志帆子・千田 浩美・高科 絵美代・玉井 明・内藤 規子・永峯 翠子・服部 さやか・福永 圭子・松村 佳奈			対 象 学 生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	音楽 で修得した音楽的感性と知識・技能を更に発展させ、幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を高める。音楽 に引き続き、ピアノ（教則本）及び子どものうたの弾き歌いレッスン（個別指導）、子どもの歌の歌唱指導と基礎的な音楽理論の講義（声楽専門教員による集団指導）を行う。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 子どものうた・生活のうたの弾き歌いと、ブルグミュラー1番以上の曲を弾くことができる（バイエルは終了する）。 2) 保育実習・教育実習に必要な、基本的な歌唱法を身につけることができる。 3) 基礎的な音楽理論を理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	「バイエルピアノ教則本」バイエル著（音楽之友社）他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	バイエルと「子どものうた」の弾き歌いは、レッスンのステップ表（音楽 で配布）に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップをすべて（全16ステップ）終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業は1週間の間に練習してきた成果をチェックする場である。実習や幼稚園・保育所の就職試験に向けて、しっかり練習する必要がある。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）小川（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示） 坂口・小川以外の教員（担当授業終了後に実施） * 坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授 業 名		音楽 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第2回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第5回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第6回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第7回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第8回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]個人レッスン [声 楽]「子どものうた」の歌唱	(内 容)	[ピアノ]各自のレッスン曲 [声 楽]「子どものうた」の歌唱指導 (必要な準備) 各自レッスンを受ける曲を練習(1日20分～30分以上)
第15回	声楽のまとめ	(内 容)	「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (必要な準備) 「子どものうた」小試験曲及びピアノ試験曲の練習(1日20分～30分以上)

授業名	形象音楽 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Figurative Music			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	明山 娟美			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	<p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。1回生で履修する音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現させ、創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させ、イメージを形作る能力の養成を目指す。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どものうたを正確に歌えることが出来る。 2) 手遊びのレパートリーを多く持つことが出来る。 3) 折り紙の折り方を多く覚えることが出来る。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (イメージを形作る能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する							
参考書	使用しない。							
留意事項	課題に積極的に取り組み、折り紙・手遊びのレパートリーを増やせるように努力すること。							
オフィス アワー	授業終了後							

授 業 名		形 象 音 楽 a ・ b ・ c ・ d	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(内 容) 授業についての説明 子どものうた・手あそび (必要な準備)	
第2回	歌唱・手遊び・折り紙 チューリップ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙等を用意する	
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 こいのぼり	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 カーネーション	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 コリ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する	
第6回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 基本的な楽器の使い方及び合奏 (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器について調べておく	
第7回	歌唱・手遊び・製作 紙ひこうき	(内 容) 子どものうたを中心に紙ひこうきを作る (必要な準備) チラシを用意する	
第8回	歌唱・手遊び・折り紙 ネクタイ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第9回	歌唱・手遊び・折り紙 シャツ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を提出する	
第10回	歌唱・手遊び・製作 カード	(内 容) カード作り (必要な準備) 製作内容を考えておく	
第11回	歌唱・手遊び・製作 カード	(内 容) カード作り (必要な準備) 製作を仕上げる	
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 製作を提出する	
第13回	歌唱・手遊び・折り紙 あじさい	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題を仕上げる	
第14回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたを中心に手あそびをする (必要な準備) 課題を提出する	
第15回	歌唱・手遊び・折り紙 あさがお	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 製作内容を考えておく	

授業名	形象音楽 a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Figurative Music			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	明山 婦美			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。春学期に履修した音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現・創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させると共にイメージを形作る能力の養成を目指す。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どものうた・手遊びのレパトリーを多く持つことが出来る。 2) 折り紙の折方を更に覚えることが出来る。 3) 創意工夫する能力を養うことが出来る。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (イメージを形作る能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (創意工夫能力)
テキスト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント カスタネット(リズム楽器)を使用する							
参考書	使用しない。							
留意事項	意欲を持って授業に参加し、課題にも積極的に取り組むこと							
オフィス アワー	授業終了後							

授 業 名		形 象 音 楽 a ・ b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(内 容) これからの授業について 子どものうた・手あそび (必要な準備)	
第2回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に様々な楽器の演奏 (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器の使い方を調べておく	
第3回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第4回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 歌詞を読みイメージを膨らませておく	
第5回	歌唱・手遊び・折り紙 赤とんぼ	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第6回	歌唱・手遊び・折り紙 証城寺の狸ばやし	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第7回	歌唱・手遊び・折り紙 証城寺の狸ばやし	(内 容) 子どものうたを中心に折り紙を折る (必要な準備) 折り紙を用意しておく	
第8回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 しゅりけん	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第9回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第10回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第11回	歌唱・手遊び・あやとり・折り紙 クリスマス	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にあやとり、折り紙を折る (必要な準備) 幼・保でよく歌われるクリスマスのうたを調べておく	
第12回	歌唱・手遊び・折り紙 飾りつけ	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心に折り紙を折る。 (必要な準備) 課題提出に向けて仕上げておく	
第13回	歌唱・手遊び・合奏	(内 容) 子どものうたの歌唱を中心にリズム楽器で演奏する (必要な準備) 幼・保でよく使われる楽器の使い方を調べておく	
第14回	歌唱・手遊び	(内 容) 子どものうたを中心に手遊びをする (必要な準備) 課題を提出する	
第15回	歌唱・手遊びをグループで考える	(内 容) 子どものうたを中心に手遊びをする (必要な準備) 手遊びを考えておく	

授業名	図画工作 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Arts and Crafts			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・林田 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	絵を描いたり、物をつくったりすることは子どもの発達にとって大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶとともに、制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる授業にしたい。							
学習成果到達目標	1) 様々な表現の方法を、体験を通して学ぶ。 2) 表現方法に自分の工夫を加えて作品にする。 3) 制作した作品やその表現技法、考察を、美しく分かりやすくまとめることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (造形力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	新造形表現・実技編 花篤 實・岡田 吾 編著 (三晃書房)							
参考書	使用しない							
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。 必携の画材、スケッチブックを購入すること。							
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		図画工作 a・b・c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 (必要な準備) 教科書の全体に目を通しておく(30分程度) 必携教材を持参すること
第2回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の使い方や技法(にじみ絵など) (必要な準備) 教科書の関連箇所18～19項を読んでおく(30分程度)
第3回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の技法(デカルコマニーなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所22項などを読んでおく(30分程度)
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく(30分程度)
第5回	水彩絵の具による表現	(内 容) 水彩絵の具の技法(スタンピングなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所23項などを読んでおく(30分程度)
第6回	水彩絵の具・パスによる表現	(内 容) 水彩絵の具・パスによる技法(パチックなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所55項などを読んでおく(30分程度)
第7回	水彩絵の具・パスによる表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所に目を通しておく(30分程度)
第8回	パスによる表現	(内 容) パスによる技法(スクラッチなど) (必要な準備) 教科書の関連箇所25項などを読んでおく(30分程度)
第9回	パスによる表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく(30分程度)
第10回	フロッタージュ(表面の凹凸を写す)	(内 容) フロッタージュ(クーピーペンシルによる) (必要な準備) 教科書28～29項を読んでおく(30分程度)
第11回	コラージュ(フロッタージュからの展開)	(内 容) コラージュの技法による個人の表現 (必要な準備) 自分の作品の構想を持つ(30分程度)
第12回	フロッタージュ、コラージュ・作品のまとめ	(内 容) 表現方法・活用・展開などについてまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所29項などを読んでおく(30分程度)
第13回	版による表現	(内 容) 紙版画の制作 (必要な準備) 自分の作品のアイデアを考えておく(30分程度)
第14回	版による表現・作品のまとめ	(内 容) 版画の学習についてまとめる (必要な準備) 教科書の関連箇所61項などを読んでおく(30分程度)
第15回	まとめ・レポート	(内 容) 授業全体の振り返り 作品返却 (必要な準備) 授業で学んだ事をまとめておく(30分程度)

授業名	図画工作 a・b・c・d			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Arts and Crafts			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・林田 沙都子・服部 正志・藤本 裕紀			対象学生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj			
授業の概要	この授業では、「子どもデパート」にむけてさまざまな材料による造形体験を持ち幼児期の造形活動の意味について理解を深める。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ちながら、図画工作についての知識と技術を学習する。 2) 子どもが造形表現によって伝えたい内容を理解できる柔軟な感性を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (造形力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使用)							
参考書	使用しない。							
留意事項	第1回から7回の授業は、ゼミ単位のチームによる創作活動になります。 子どもとの関わりや造形活動にふさわしい服装や態度、言葉遣いを心がけること。							
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		図画工作 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもデパート	(内 容) 子どもデパートのための課題の説明 (必要な準備) さまざまな技法を復習しておく(30分程度)	
第2回	子どもデパート	(内 容) 課題についてのグループでの相談する (必要な準備) 配布プリントを読む(30分程度)	
第3回	子どもデパート	(内 容) 材料について理解し、工夫する (必要な準備) さまざまな素材を探しておく(30分程度)	
第4回	子どもデパート	(内 容) 展示の環境構成について工夫する (必要な準備) 子どもの動きと活動について考えておく(30分程度)	
第5回	子どもデパート	(内 容) 華頂祭での作品の準備と展示 (必要な準備) 展示作業などの予定を立てておく(30分程度)	
第6回	子どもデパートの発表	(内 容) 子どもと関わり、子どもを理解する (必要な準備) 子どもの発達について調べておく(30分程度)	
第7回	子どもデパートのまとめと考察	(内 容) 課題が達成できたか。レポートと考察 (必要な準備) 自らの取り組みについて考えておく(30分程度)	
第8回	指絵の具をつくる	(内 容) 指絵の具の制作と指絵の表現 (必要な準備) テキスト24項を読んでおく(30分程度)	
第9回	小麦粉粘土をつくる	(内 容) 小麦粉粘土の制作と遊び (必要な準備) テキスト33項を読んでおく(30分程度)	
第10回	張り子の制作 1	(内 容) かたちをつくり、和紙を貼り込む (必要な準備) アイデアを考えておく	
第11回	張り子の制作 2	(内 容) 彩色とニス塗り (必要な準備) 前回の内容を完成させておく(30分程度)	
第12回	マーブリング 1	(内 容) マーブリング紙をつくる (必要な準備) テキスト27項を読んでおく(30分程度)	
第13回	マーブリング 2	(内 容) マーブリング紙で何かをつくる (必要な準備) アイデアを考えておく(30分程度)	
第14回	スライムをつくる	(内 容) スライムの制作と遊びへの展開 (必要な準備) テキスト32項を読んでおく(30分程度)	
第15回	まとめ	(内 容) レポートと講評 (必要な準備) 自らの活動について考えておく(30分程度)	

授 業 名	小児体育 a・b・c・d			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位
英 文 名	Infant Physical Education			開 講 時 期	春・秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	佐東 恒子・山本 武司			対 象 学 生	幼児教育1ya～yc・yd～ye・yf～yh・yi～yj		
授業の概要	<p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積んでいく必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導や援助について学習する。</p>						
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育現場で運動遊びを実践する時、理解しておかなければならない理論と実践を学び指導できるようにする。 2) 子どもが楽しいと思う、運動遊びの指導ができる保育者になることを目標とする。 3) 子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導が出来るようになることを目標とする。</p>						
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	幼児体育（基礎理論と指導の方法） 前橋明編著 発行所 樹村房						
参 考 書	『幼児の運動あそび』菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） 『05歳児の運動遊び指導百科』前橋明著かりのくに株式会社						
留 意 事 項	保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。						

授 業 名		小児体育 a・b・c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (必要な準備)
第2回	基本の運動	(内 容) 歩くと走るの違いについて知る。歩く・走る・ 跳ぶの動きから、いろいろな遊びに発展させる。 (必要な準備) 基本の運動にはどのような運動があるか考える。
第3回	リズム運動	(内 容) いろいろなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子～4拍 子のリズム遊び (必要な準備) どんなリズムが有るのか考えておく
第4回	リズムダンス	(内 容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子ども が楽しめるリズムダンス (必要な準備) 幼児の好きな曲を選曲しておく。
第5回	ボール遊び	(内 容) ボールの特性を知る。つく・蹴る・ころがす・投げる・受ける・ などの遊びを行う。 (必要な準備) 少人数のボール遊びを考えておく
第6回	ボールでゲーム遊び	(内 容) 多人数でのボール遊び。いろいろなゲーム遊びを体験し、子ども達に 楽しいゲーム遊びを提供出来るようにする。 (必要な準備) 子どものころに遊んだゲーム遊びを書き出す
第7回	フープ遊び	(内 容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ遊び を行う。 (必要な準備) 色々なフープ遊びを考えておく。
第8回	フープでゲーム遊び	(内 容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争ゲームを行う。協 力する事を経験する。 (必要な準備) いろいろなゲーム遊びを考えておく
第9回	マット遊び	(内 容) 床を利用しているような動きを行う。(床となかよし這い這いで進む 、動物遊び) (必要な準備) いろいろな動物のうごきを考える
第10回	マット遊びの補助	(内 容) マット遊びの注意点について説明。前転・後転側転遊びの補助の方 法を学ぶ。 (必要な準備) 補助で大事な事は何かを考える
第11回	体操をつくる	(内 容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操をつくる。幼児の年 齢に合った体操を考える (必要な準備) 何歳の体操を創るのかを決めて、曲を選んでおく。
第12回	体操をつくる 曲を選択する	(内 容) 体操の動きを見直しより良い体操に仕上げる。 (必要な準備) 体操の動きの流れを見直す。
第13回	体操の発表	(内 容) 発表した体操の評価をする。評価表を配付する。各自責任を持って 評価をする。 (必要な準備) 創作した体操を自分の動きとなるように練習。
第14回	パラバルーン遊び	(内 容) パラバルーンの扱い方を知る。みんなと協力して行う遊びである事 を知る (必要な準備) パラバルーンの遊びを調べる。
第15回	まとめ	(内 容) 授業全体の振り返りを行う。 (必要な準備) 幼児の運動遊びで大切な事をまとめておく。

授業名	小児体育			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Infant Physical Education			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	佐東 恒子			対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	<p>幼児の発育発達に応じた運動や遊びを、安全に指導や援助が出来る知識と技術を学ぶ。運動指導のレパトリーを広げることができるように学ぶ。指導内容について話し合い振り返りを行うことで、各自の力を身につけていく。子どもが能動的に運動するには、適切な環境構成と適時な活動の提案が必要であることを学ぶ。集団遊びの指導ができる力を身につける。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子ども達の年齢にあった運動遊びを考え、指導と援助が出来るようにする。 2) 集団でのゲーム遊びの指導や、一人一人を理解し指導の出来る保育者になることを目標とする。 3) 手具を使って運動遊びを考え、子どもたちが楽しいと思える指導が出来るようにする。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	<p>幼児体育（基礎理論と指導の方法） 前橋明編著 発行所 樹村房</p>							
参考書	<p>『幼児の運動あそび』菊池秀範・石井美晴編著（相川書房） 『05歳児の運動遊び指導百科』前橋明著かりのくに株式会社 『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子編著（萌文書林）</p>							
留意事項	<p>運動遊びを楽しむ心を持ち続けて、子ども達に遊びを提供出来る指導者を目指してもらいたい。 授業で学習した内容をノートにまとめておく。</p>							
オフィスアワー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>							

授 業 名		小児体育
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本授業のねらい等についてガイダンスを行う。授業の進め方について説明。 (必要な準備) 小児体育 の授業内容を振り返っておく。
第2回	基本の運動	(内 容) 歩く・走る・跳ぶからゲーム的な遊びに発展させ、ふれあい遊びと展開する。 (必要な準備) 基本の運動にはどんな動きがあるか調べる
第3回	リズム運動	(内 容) 2歳児から5歳児用のリズムダンスを行いリズムダンスの楽しさを知る。 (必要な準備) 知っているリズムダンスを調べておく
第4回	リズム遊びの指導	(内 容) リズムに乗って動く事の重要性を学ぶ。指導者と子ども役になって行う。 (必要な準備) リズムダンスの復習をしておく
第5回	用具を使用しない遊び	(内 容) 体のふれあい遊び・ジャンケン遊び(少人数の遊び・グループでの遊び) (必要な準備) ジャンケン遊びにはどんな遊びがあるかを調べておく
第6回	鬼遊び	(内 容) いろんな鬼遊びを行い、グループで鬼遊びを考え発表をする。 (必要な準備) 知っている鬼遊びを発表できるようにしておく
第7回	ウォーミングアップの学習	(内 容) 子ども達が積極的に取り組みたくなるウォーミングアップの内容を考え実践していく。 (必要な準備) 各自動きを考えノートにまとめておく。
第8回	ウォーミングアップの指導	(内 容) 各自が考えたウォーミングアップを、それぞれが指導者になり、皆に指導をする。(指導案の作成) (必要な準備) ウォーミングアップの指導を出来るようにする。
第9回	サーキット遊び	(内 容) サーキット遊びの特性について理解する。サーキット遊びを実践して楽しさを知る。 (必要な準備) 配付したプリントを読んでおく
第10回	サーキット遊びを考える	(内 容) 各班で子どもの年齢にあったサーキット遊びを考え、用具のセッティングにも注意する。(発表する) (必要な準備) サーキットの内容を年齢別に考えてまとめておく。
第11回	用具を使っの遊び	(内 容) 各班で用具(フープ・ボール)を使って遊びを考える。 (必要な準備) 幼児の年齢に応じた遊びを考えておく。
第12回	用具を使ってリズム体操	(内 容) 用具を使って(ボール・フープ)リズム体操を考える。 (必要な準備) リズム体操にあう曲を選んでおく。
第13回	短縄遊び	(内 容) 短縄を使っているような遊びを行う。短縄を使ってグループで遊びを考え発表する。 (必要な準備) 縄でどんな遊びが出来るか考えておく
第14回	長縄遊び	(内 容) 長縄を使っの遊び(縄くぐり・郵便屋さん・伝承遊び・いろんな跳び方をしてみよう。) (必要な準備) 長縄でどんな跳び方をして遊んでいたかまとめておく。
第15回	まとめ	(内 容) 授業全体の振り返りを行う。 (必要な準備) 自分が得意とする遊びをノートに書き出しておく。

授 業 名	保育内容・健康 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : Health			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	幼児教育2ya~yf・yg~yl			
授業の概要	子どもが健康で安全な生活を送ることが出来るよう、保育者が配慮すべき事項について学ぶ。子どもたちの運動量の減少と遊び体験の減少による運動不足からくる肥満児の増加や、空腹感や疲労感の減少からくる生活リズムの乱れの問題。家庭生活では孤食や夜型の生活が広がり、園生活に大きな影響を及ぼしつつある現状を理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼児期における心身の健康に関する現状と健康生活に必要な生活習慣の形成やその確立の重要性が理解できる。 2) 身体の発育・発達に関する基礎的な知識を理解できる。 3) 子どもの安全のための保育者の携わり方について理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	保育ライブラリー(保育内容健康) 北大路書房							
参 考 書	演習保育内容健康 建帛社							
留 意 事 項	自分自身は「健康」に関してどのような問題意識をもっているのか考えてみよう。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		保育内容・健康 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 保育内容「健康」の内容について (必要な準備)	
第2回	子どもの健康な生活とは	(内 容) 生活リズムの変化 (必要な準備) 健康な生活リズムについて考えをまとめておく	
第3回	幼児の健康	(内 容) 幼児の健康状態の把握 (必要な準備) 教科書 P 14～ P 23を読んでおく	
第4回	幼児の発達理解	(内 容) 乳幼児の体格と生理機能の発達 (必要な準備) 教科書 P 26～ P 39を読んでおく	
第5回	運動機能の発達	(内 容) 子どもたちがどのような運動が出来るのか、どの程 度の能力があるのか把握する。 (必要な準備) 教科書 P 40～ P 52を読んでおく	
第6回	心の発達と健康	(内 容) 子どものものの考え方・子どもの道徳判断 (必要な準備) 教科書 P 53～ P 64読んでおく。	
第7回	幼児のあそびの発達	(内 容) あそびとは何か・あそびの発達過程 (必要な準備) 今のこどもはどんなあそびをしているのか調べる。	
第8回	あそびを豊かにする保育者の役割	(内 容) 者の役割について理解する (必要な準備) 遊びを豊かにする方法を考える。	
第9回	幼児の体格・運動能力測定法	(内 容) 運動能力の年代変化と問題 (必要な準備) 教科書 P 80～ P 86 P 103～ P 118読んでおく	
第10回	幼児の生活スタイル	(内 容) 幼児の生活スタイルの現状と問題点 (必要な準備) 生活習慣の形成における保育者の役割を考える。	
第11回	安全管理と安全教育	(内 容) 安全管理と安全教育の必要性 (必要な準備) 教科書 P 120～ P 130読んでおく	
第12回	応急処置法	(内 容) 手当の順序・けがに対するてあて (必要な準備) 自分が経験した応急処置を書き出す。	
第13回	保育における健康行事	(内 容) 保育における年間行事 (必要な準備) 幼稚園・保育園の年間行事の内容を調べる。	
第14回	保育の計画と指導案	(内 容) 年間指導計画と短期の指導計画・保育評価 (必要な準備) 教科書 P 155～ P 165読んでおく	
第15回	まとめ	(内 容) 保育者の役割について確認する (必要な準備) 保育者の役割についてまとめておく	

授 業 名	保育内容・人間関係 a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	鈴木 えり子・名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1ya ~ ye		
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないかについて、具体的な事例を取り上げ、検討していく。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。 2) 人間関係の発達過程を、個人・集団の両面からとらえ、人的環境への理解を深める。 3) 子どもが望ましい人間関係を培うことができるようにするための保育者の役割と課題を理解する。						
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『子どもの心の育ちと人間関係』寺見陽子編 保育出版社						
参 考 書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省・『幼稚園教育要領解説書』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』内閣府・厚生労働省・文部科学省（フレール館）						
留 意 事 項	グループワークや発表があるので、自分自身が人とかかわる力を身につけることを意識して、積極的に授業に臨むこと。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時研究室に掲示しますので確認してください						

授 業 名		保育内容・人間関係 a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自分自身の人間関係を振り返る。 (必要な準備) シラバスを読んでおく・テキスト10p-13pを読んでおく	
第2回	保育の基本と領域「人間関係」の歴史の変遷	(内 容) 領域「人間関係」の位置づけを学ぶ。 (必要な準備) テキスト28p-29pを読みまともておく	
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(内 容) 領域「人間関係」のねらい・内容を学ぶ。 (必要な準備) テキスト30p-31pを読みまともておく	
第4回	人とのかかわる力の発達 (0歳児)	(内 容) 0歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト34p-51pを読みまともておく	
第5回	人とのかかわる力の発達 (1, 2歳児)	(内 容) 1.2歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト52p-69pを読みまともておく	
第6回	人とのかかわる力の発達 (3歳児)	(内 容) 3歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト70p-87pを読みまともておく	
第7回	人とのかかわる力の発達 (4歳児)	(内 容) 4歳児の発達課題と「ひと環境」を学ぶ。 (必要な準備) テキスト88p-103pを読みまともておく	
第8回	人とのかかわる力の発達 (5歳児)	(内 容) 5歳児の発達課題と人との関係を学ぶ。 (必要な準備) テキスト106p-123pを読みまともておく	
第9回	個の育ちと集団の育ち、遊びの意義と発達	(内 容) 保育における個の育ちと集団の育ちを理解する。 (必要な準備) テキスト104-105p、124pを読みまともておく	
第10回	気になる子どもとのかかわりや援助について	(内 容) 個々へのかかわりについて事例を通して学ぶ。 (必要な準備) テキスト126p-139pを読みまともておく	
第11回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第12回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第13回	人とのかかわり方を実践する	(内 容) 人とのかかわり方を実践発表する。 (必要な準備)	
第14回	道徳性の芽生えとは	(内 容) 社会規範、道徳性、きまりについて理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。	
第15回	家庭・地域との連携について(園だより、クラスだより・園行事)	(内 容) 園だより、クラスだよりの意義や書き方のポイント、地域との連携を学ぶ。 (必要な準備) 園行事を振り返ってみる。	

授 業 名	保育内容・人間関係 b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	浅田 瞳・名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1yf～yj			
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかかわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないのかについて、具体的な事例を取り上げ、検討していく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育内容領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的な知識を説明できる。 2) 人間関係の発達過程を知り、個人・集団の両面からとらえ、人的環境への理解を深める。 3) 子どもが望ましい人間関係を培うことができるようにするために、保育者は何をすればよいのか、その役割と課題について説明できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『子どもの心の育ちと人間関係』寺見陽子編 保育出版社 『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説』							
参 考 書	授業中に提示する。							
留 意 事 項	アクティブラーニングの要素を組んだグループワークやワークショップ形式の授業を取り入れていくため、自分自身が人とかかわることを意識して積極的に授業に参加すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	第 1 回目の授業で発表する							

授 業 名		保育内容・人間関係 b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 自分自身の人間関係を振り返る (必要な準備) テキストpp.10-13を読むこと	
第2回	保育の基本と領域「人間関係」の歴史の変遷	(内 容) 領域「人間関係」の位置づけを学ぶ。 (必要な準備) テキストpp.28-29を読むこと	
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(内 容) 領域「人間関係」のねらい・内容・注意事項について学ぶ (必要な準備) テキストpp.30-31を読むこと	
第4回	人とかかわる力の発達1 (0歳児)	(内 容) 0歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.34-51を読むこと	
第5回	人とかかわる力の発達2 (1~2歳児)	(内 容) 1~2歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.52-69を読むこと	
第6回	人とかかわる力の発達3 (3歳児)	(内 容) 3歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.70-87を読むこと	
第7回	人とかかわる力の発達4 (4歳児)	(内 容) 4歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.88-103を読むこと	
第8回	人とかかわる力の発達5 (5歳児)	(内 容) 5歳児の人間関係の発達の特徴を学ぶ (必要な準備) テキストpp.106-123を読むこと	
第9回	個の育ちと集団の育ち、遊びの意義と発達	(内 容) 保育における個と集団の育ちの違いを理解する (必要な準備) テキストpp.104-105、p.124を読むこと	
第10回	気になる子どもとのかかわりや援助について	(内 容) 個々へのかかわりについて事例を通して学ぶ (必要な準備) テキストpp.126-139を読むこと	
第11回	人とのかかわりを実践する1	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく	
第12回	人とのかかわりを実践する2	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく	
第13回	人とのかかわりを実践する3	(内 容) 人とのかかわりを実践発表する (必要な準備) 授業の復習をしておく。	
第14回	道徳性の芽生えとは	(内 容) 社会規範、道徳性、きまりについて理解する (必要な準備) 身近な規範や道徳に関する事例記事やインターネット記事を持ってくる	
第15回	家庭・地域との連携について(園だより、クラスだより、園行事)	(内 容) 園だより、クラスだよりの意義や書き方のポイント、地域との連携を学ぶ (必要な準備) これまで自分が体験した園行事について発表できるようにすること	

授 業 名	保育内容・環境 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Child Care : Environment			開 講 時 期	春・秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2ya～yf、yg～yl		
授業の概要	子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わるために、保育者として必要な配慮は何かを考えていく。子どもの興味を養うためには、まず保育者自身が好奇心や探求心をもって、自然や社会に関わっていくことが必要である。そこで、日常的に目にする木々や植物の実り、昆虫や小動物の生態に関心をもてるようにすることや、動植物の飼育栽培の実践を紹介する。また、それらを図鑑で調べることによって文字や数に関心をもてるようにするなど、子どもの自発性を重視して、子どもの認識を高めるかかわりを考えていく。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。 2) 子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて発表できる。 3) 環境を踏まえた活動指導案を作成・実践できる。						
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編『生活事例からはじめる保育内容環境』(青踏社)						
参 考 書	文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館)						
留 意 事 項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。授業への積極的な参加をし、日常生活への研究心をもち興味・関心を深める。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業にて告知。						

授 業 名		保育内容・環境 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション・「環境」とは	(内 容) 授業進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 (必要な準備) 教科書 1～5
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針改訂及び領域「環境」について、保育内容のとらえ方と考え方	(内 容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針における改訂の主旨と領域「環境」・保育内容「環境」について学ぶ (必要な準備) 教科書 11～44
第3回	子どもの環境と保育者	(内 容) 環境への積極的なかかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする (必要な準備) 環境領域の発表の準備 話し合い
第4回	子どもの活動や生活と「環境」	(内 容) 乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第5回	乳幼児の主体的な生活と領域「環境」	(内 容) 乳幼児の主体的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく
第6回	園外活動によって育つもの	(内 容) 散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第7回	季節による保育活動	(内 容) 身近な植物と保育活動でのかかわり、基礎的な知識を理解し発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第8回	身近な動物と保育活動	(内 容) 身近な動物の飼育など子どもとのかかわり、保育活動について調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第9回	科学性を伸ばすあそびと子ども	(内 容) 空気、水の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第10回	科学性を伸ばすあそびと子ども	(内 容) 音、光、磁石の遊びについて調べて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第11回	数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびと子ども	(内 容) 数量・図形、文字、標識へのかかわり、その感覚をのばすためのあそびについて発表する。 (必要な準備) 教科書を読んでおく
第12回	領域「環境」指導上の問題点	(内 容) 領域「環境」指導上の問題点を理解する (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第13回	領域「環境」の留意事項	(内 容) 領域「環境」の留意事項を学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園教育要領 保育所保育指針の「環境」の該当箇所を読んでおく
第14回	領域「環境」における保育者の役割	(内 容) 領域「環境」における保育者の役割について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える	(内 容) 「環境」と保育の関係性について振り返る。 (必要な準備) 教科書を読んでおく

授業名	保育内容・言葉 a・b・c・d			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care : Language			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	遠藤 純			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf、yg～yi、yj～yl			
授業の概要	ことばと思考の関係について考えながら、乳幼児期のことばの発達をおさえて、ことばを育むことばがけ、あそび、児童文化財について考察する。							
学習成果到達目標	1) ことばを育むことの意味を知り、そのための手だてを習得する。 2) ことばと思考との関わりを理解し、子どもと言葉の関係について深く知る。 3) ことばをはぐくむ児童文化について理解を深め、その歴史や現状、特徴を理解する。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)	
テキスト	配布プリント							
参考書	なし							
留意事項	真摯な態度での受講を望む。							
オフィス アワー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		保育内容・言葉 a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	幼児教育におけることばの教育の意味	(内 容) 授業の目的と内容について解説する。 (必要な準備)	
第2回	ことばとは何か	(内 容) ことばとは何か (必要な準備) ことばと思考の関係について調べておく。	
第3回	乳幼児期のことばの発達 1	(内 容) 0, 1, 2 歳児のことばの発達を考える (必要な準備) 実習での子どもの発したことばを振り返っておく。	
第4回	乳幼児期のことばの発達 2	(内 容) 3, 4, 5 歳児のことばの発達を考える (必要な準備) 実習での子どものことばを振り返っておく。	
第5回	ことばが育つ環境と保育者の役割 聞くこと・話すことの指導	(内 容) 保育者のことばがけについて (必要な準備) 実習で子どもの対して発した保育者としてのことばについて振り返っておく。	
第6回	ことばが育つ環境と保育者の役割 ことばの発達と障がい	(内 容) 子どものことばの発達と障がいのある子どもへの指導について (必要な準備) ことばに発達のある子どもへの関わりについて考えをまとめておく。	
第7回	ことばが育つ環境と保育者の役割 保育者と園の役割	(内 容) 保育者と保護者、園の役割について (必要な準備) 子どもへの関わり方について、三者それぞれの役割について考えをまとめておく。	
第8回	ことばを育む保育教材 1	(内 容) 絵本とは何か 1 (必要な準備) 絵本の基本的な読み方について考えておく。	
第9回	ことばを育む保育教材 2	(内 容) 絵本とは何か 2 (必要な準備) 絵本の特徴について考えておく。	
第10回	ことばを育む保育教材 3	(内 容) 童話、お話の歴史 (必要な準備) 童話とお話の違いについて調べておく。	
第11回	ことばを育む保育教材 4	(内 容) 児童文学の歴史 (必要な準備) 子どもの文学の歴史について調べておく。	
第12回	ことばを育む保育教材 5	(内 容) 紙芝居 (必要な準備) 紙芝居の特徴について考えておく。	
第13回	ことばを育む保育教材 6	(内 容) パネルシアター (必要な準備) パネルシアターの特徴について考えておく。	
第14回	文字指導	(内 容) 文字指導の内容と方法について (必要な準備) 文字指導の方法について考えておく。	
第15回	授業のまとめ	(内 容) 授業全体を通しての質疑応答 (必要な準備)	

授業名	保育内容・表現 a・b・c・d			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Child Care : Expressions			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司・服部 正志			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf、yg～yi、yj～yl			
授業の概要	感性と創造力を育てる領域「表現」の理解を深めるための演習。さまざまな演習で仲間と表現を伝えあうことの大切さを学ぶ。毎回、テーマを設定し、さまざまな表現活動を行うとともに、その表現体験のレポートによって体験を記録し考察する力を養う。学習項目は、学生の個性や進度によって変更することがある。							
学習成果到達目標	1) 子どもの表現を理解し、表現の意欲を育てる指導法についての知識を深める。 2) 自ら表現する楽しさ、お互いの「表現」から学ぶことの楽しさ、豊かさを実感する。 3) お互いの個性を理解し、協力しながら活動する力を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (表現力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のものを使います)							
参考書	使用しない。							
留意事項	普段からさまざまな表現活動に対する関心を持つこと。 造形表現にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい態度や気持ちを忘れないこと。							
オフィス アワー	学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。							

授 業 名		保育内容・表現 a・b・c・d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	(内 容) 「表現」領域のねらいとその内容を知る (必要な準備) テキスト35から37項を読んでおく(30分程度)
第2回	教室全体を使って落書きする	(内 容) 身体スケールを超えた空間を感じ表現する (必要な準備) テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第3回	手のフォルムからの見立てによる表現	(内 容) 手に描く (必要な準備) 手の動きを観察しておく(30分程度)
第4回	大きなこいのぼりをつくる	(内 容) 身近な素材(新聞紙等)による集団での造形 季節の行事に関心を持つ (必要な準備) テキスト137から138項に目を読んでおく(30分程度)
第5回	クモの巣をつくる	(内 容) 身近な素材(ロープ、紐等)による空間造形 (必要な準備) テキスト119から120項に目を読んでおく(30分程度)
第6回	ケント紙で高さ比べ	(内 容) グループで背の高い構造物を作る (必要な準備) 造形の動機付けについて考えておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第7回	個性的な帽子をつくる	(内 容) 和紙、新聞紙による変身遊び (必要な準備) いろいろな帽子の作り方について調べる テキスト135項に目を読んでおく(30分程度)
第8回	リレー童話をつくる	(内 容) グループで創作童話を作る (必要な準備) 頭を柔軟にしておく(30分程度)
第9回	リレー童話の音読	(内 容) リレー童話を発表 (必要な準備) 童話の読み方を練習しておく テキスト94から95項に目を読んでおく(30分程度)
第10回	新聞紙で造形する	(内 容) テーマを決定する力を養う (必要な準備) コミュニケーション力を高めておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第11回	折りたたみシアターをつくる	(内 容) 折りたたみシアターの制作 (必要な準備) テーマやアイデアを考えておく テキスト48から49項に目を読んでおく(30分程度)
第12回	折りたたみシアターの発表	(内 容) 折りたたみシアターを発表する (必要な準備) 模擬保育の場を想定しておく テキスト98から101項に目を読んでおく(30分程度)
第13回	季節の絵・「夏」	(内 容) 夏の子どもの生活を描く (必要な準備) 壁面制作について理解する(30分程度)
第14回	季節の絵・「秋」	(内 容) 秋の子どもの遊びを描く (必要な準備) 就職活動における造形課題について知る(30分程度)
第15回	まとめ	(内 容) レポートと講評 (必要な準備) 授業での演習を復習、考察しておく(30分程度)

授 業 名	保育内容・表現 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位
英 文 名	Child Care : Expressions			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	小林 志保			対 象 学 生	幼児教育2ya～yc、yd～yf		
授業の概要	<p>1) 保育内容・領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。</p> <p>2) 保育実践に関する知識を理解し、指導のための基礎技能を習得し、自身の表現力や感性を養い、子どもが主体的に表現することを楽しむための働きかけについて学ぶ。</p> <p>3) 様々な身体表現の実習を通して、リズムによって動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現したり、演じたりする楽しさを学ぶ。</p>						
学習成果到達目標	<p>1) 保育内容・領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。</p> <p>2) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそびの指導・援助ができるようになる。</p> <p>3) 子どもの発育・発達に応じた身体表現活動の展開ができるようになる。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する						
参考書	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育内容「表現」からだで感じる・表す・伝える 株式会社杏林書院 元気な子どもを育てる幼児体育 保育出版社						
留意事項	積極的な受講姿勢を尊重する。自身の健康維持、安全管理に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。次々と新しい教材を学ぶので、毎回各自で予習・復習をしっかりとすること。授業の進行具合により、学習項目が変更になる場合もある						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する						

授 業 名		保育内容・表現 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容について	(内 容)	領域「表現」について学ぶ (必要な準備) 領域「表現」を読んでおく
第2回	心と体を動かすふれあいあそび	(内 容)	心と体をはぐくむふれあいあそびを学ぶ (必要な準備) 自分が小さいころにしていた動きやあそびなどを思い出しておく
第3回	心と体を巧みに動かす表現	(内 容)	体を操る・動かす、基本動作を学ぶ (必要な準備) 筋肉・骨格・神経系などの基礎知識を調べる
第4回	幼児体操とリズムあそび	(内 容)	幼児体操と種々のリズムあそびを学ぶ (必要な準備) リズムあそびについて調べる
第5回	リズムダンスの導入方法	(内 容)	種々のリズムあそびの導入方法を学ぶ (必要な準備) リズムあそびの工夫について調べる
第6回	リズムダンスの展開方法	(内 容)	種々のリズムあそびの展開方法を学ぶ (必要な準備) いろいろな工夫を考える
第7回	フォークダンス実習	(内 容)	子ども向けの楽しく簡単なフォークダンスを学ぶ (必要な準備) フォークダンスの背景、歴史、特徴などを調べる
第8回	チアダンス実習	(内 容)	チアダンスの基本を学ぶ。手具の活用方法を学ぶ。 (必要な準備) 表現としてのチアダンスについて考える
第9回	チアリーディング実習	(内 容)	チアリーディングの基本を学ぶ (必要な準備) チアダンスやチアリーディングを観る
第10回	組体操の導入方法	(内 容)	幼児のための組体操の基本を学ぶ (必要な準備) 組体操を観る
第11回	リズムダンス創作 創作に向けたねらいの確認	(内 容)	テーマに合った動きの工夫、楽しくなる工夫を学ぶ グループ編成 をする (必要な準備) 作品に合う音楽・効果音、小物を探しておく
第12回	リズムダンス創作 いろいろな工夫	(内 容)	様々な意見を出し合い、グループで考えて振りをつける (必要な準備) いろいろな工夫を考える(高低、強弱、方向)
第13回	リズムダンス創作 テーマを表現する	(内 容)	グループ練習を行い、仕上げる (必要な準備) テーマが表現されているか確認する
第14回	創作作品発表	(内 容)	創作した作品を発表する (必要な準備) 他人の創作を観て学ぶ
第15回	「表現あそび」についてのまとめ	(内 容)	授業を振り返り、表現あそびについて考える (必要な準備) 授業内容を振り返り、学んだ事を整理する

授業名	保育内容・表現 c・d			開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Child Care : Expressions			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	山本 満佐子			対象学生	幼児教育2yg~yi、2yj~yl		
授業の概要	保育現場で行われる器楽合奏について知り、打楽器の奏法を習得する。リズムに合わせて動く楽しさや、イメージをふくらませて創造的に表現することの楽しさを、演習を通して学ぶ。						
学習成果到達目標	1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場で自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こりうる様々な問題に柔軟な対応力を身につける。						
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	最新保育講座11 保育内容「表現」平田智久・小林紀子・砂上史子 編 ミネルヴァ書房						
参考書	『幼児の音楽教育』 森田百合子 他 教育芸術社						
留意事項	合奏やアンサンブルなど、練習を要する時は、担当のパート練習をしておくこと。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する						

授 業 名		保育内容・表現 c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方・評価の方法などを説明 (必要な準備) テキスト領域「表現」を読む	
第2回	表現遊び：幼児と歌あそび	(内 容) 手あそび 指あそび (必要な準備) 知っている手遊びが正確にできるようにする	
第3回	表現遊び：手あそび歌の創作	(内 容) 手あそび 指あそびの動きを考えよう (必要な準備) シートの記入	
第4回	表現遊び：発表会	(内 容) オリジナル手あそび歌の発表 (必要な準備) シートの仕上げ	
第5回	器楽合奏：奏法について	(内 容) 幼児向けの打楽器の奏法を知ろう (必要な準備) 打楽器の正しい持ち方・演奏の仕方を覚える	
第6回	器楽合奏：楽器のふりわけ	(内 容) 担当楽器を決めて演奏 (必要な準備) 打楽器の名称を覚え、奏法を習得する	
第7回	器楽合奏：音のバランス	(内 容) 他の楽器の音を聞いてリズムに合わせよう (必要な準備) 自分のパートを練習する	
第8回	器楽合奏：曲想の表現	(内 容) 音楽の構成を考えて表現しよう (必要な準備) 正確に演奏できるように練習する	
第9回	小編成アンサンブル：小グループによる選曲	(内 容) 曲の選択：グループ分け (必要な準備) 自分のパートを理解する	
第10回	小編成アンサンブル：奏法の確認	(内 容) 創作活動 (必要な準備) スコア楽譜を正しく読み取る	
第11回	小編成アンサンブル：発表会	(内 容) 練習・仕上げ (必要な準備) 正確に演奏できるように練習する	
第12回	リズム表現：いろいろなステップ	(内 容) テーマに合わせた音と動きを考えよう (必要な準備) テキストP44 演習問題1をする	
第13回	リズム表現：ポーズのカノン	(内 容) 動きを創ってみよう (必要な準備) テキストP44 演習問題2をする	
第14回	リズム表現：速さとリズム	(内 容) 音を聞いて動いてみよう (必要な準備) テキストP79 演習問題2をする	
第15回	リズム表現：まとめ	(内 容) テーマに合わせて動いてみよう (必要な準備) テキストP144 演習問題1をする	

授業名	教育方法の研究 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Educational Method Research			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育2ya～yf、yg～yl			
授業の概要	幼稚園教育にふさわしい教育方法について考える。幼児期に遊びや生活を通して心身の調和のとれた発達の基盤を培うことができるよう保育を計画できる能力養う。授業では、指導計画の要点と作成方法を学ぶ、多様な幼児教育を知る、を通して、これからの幼稚園教育の方法を考え、一人ひとりの教育実践につなげる。							
学習成果到達目標	1) 幼児の生活する姿や、幼児一人一人の幼児理解を深めつつ、幼児に必要な教育方法を考えることができる。 2) 幼児が集団生活の中で喜びと充実した学びの体験をしながら発達に必要な体験が積み重なっていく教育・保育計画を立案し、実践につなげることができる。 以上の2点から学内外において、教育・保育の体験を積み重ね専門知識の幅を広げ、実践力の習得をめざす。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	担当者が作成したプリントを適宜配付する							
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館							
留意事項	定期試験60%、平常試験40%の割合で評価する。平常試験40%のうち、20%が授業でのグループ学習の成果、15%が毎回授業時に提出をもとめるコメントカード、5%が授業への貢献（発言、進行促進など）。成績評価に関連して以下の三点を守ってください。毎回の授業で記入を求めるコメントカードがきちんと提出できていることが出席を意味します。授業のなかでは、制作もおこないます。のり、はさみ、色ペンなど事前に必要なものを連絡します。授業のなかで、グループワークをおこないます。他人まかせにせず、知らないメンバーとも積極的に協力すること。							
オフィスアワー	授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み（研究室：1号館3階）							

授 業 名		教育方法の研究 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	「教育方法の研究」の授業の流れ	(内 容) 「教育方法の研究」の授業の内容と進め方について理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでくる	
第2回	【知識】環境構成について 【実践】4月を意識した保育	(内 容) 幼児教育での環境構成の意義を学ぶ (必要な準備) 2・3月の保育実習の設定保育のふりかり	
第3回	【知識】教育課程と指導計画 【実践】5月を意識した保育	(内 容) 教育課程と指導計画の関係を学ぶ (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第4回	【知識】子どもの様子(姿)の記述 【実践】6月を意識した保育	(内 容) 指導計画の子どもの様子(姿)がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第5回	【知識】指導計画の「ねらい・内容」 【実践】7月を意識した保育	(内 容) 指導計画の「ねらい・内容」がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第6回	【知識】指導計画の環境構成 【実践】8月を意識した保育	(内 容) 指導計画の環境構成がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第7回	【知識】子どもの活動と保育者の援助 【実践】9月を意識した保育	(内 容) 子どもの活動と保育者の援助がまとめられる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第8回	【知識】保育の評価 【実践】10月を意識した保育	(内 容) 保育の評価の視点を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第9回	【知識】保育実践のふりかえり 【実践】11月を意識した保育	(内 容) 6月の保育実習のなかで部分保育のふりかえりから改善点を見つける (必要な準備) 6月実習で観察してきた各幼稚園の環境構成や援助の在り方	
第10回	【知識】年間指導計画 【実践】12月を意識した保育	(内 容) 年間の指導計画の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第11回	【知識】月間指導計画 【実践】1月を意識した保育	(内 容) 月間の指導計画の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第12回	【知識】週案の計画 【実践】2月を意識した保育	(内 容) 週案の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第13回	【知識】日案の計画 【実践】3月を意識した保育	(内 容) 日案の構成を説明できる (必要な準備) グループ 部分保育の発表の準備	
第14回	【知識】異年齢クラスの保育方法 【実践】9月実習にむけて日案の作成	(内 容) 異年齢クラスの特徴を理解し保育方法を考えることができる (必要な準備) 日案を考える上で必要な資料	
第15回	【知識】幼小連携カリキュラム 【実践】9月実習にむけて日案の発表	(内 容) 幼小連携カリキュラムについて説明できる 9月実習にむけて日案を完成させ、自己評価、相互評価できる (必要な準備) 日案の提出	

授 業 名	保育相談 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Consultation of Child care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	藤井 裕子・武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2ya~yf			
授業の概要	<p>1、幼児理解を深め保護者に適切な養育上の助言指導や支援が実践できるようになることをめざす。</p> <p>2、保育相談の意義や役割、内容について知識や方法を学ぶ。</p> <p>3、対人関係能力を身につけて保護者との良好な信頼関係を構築する。関係機関について概要を理解し連携や協働できることをめざす。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育相談の意義や役割を学び、保護者との良好な信頼関係を構築する。</p> <p>2) 保育に関する専門的知識、技術を背景に子どもの養育に関して適切な助言や支援が行うことができる。</p> <p>3) 親の育児不安や育児ストレスに対応し、安定した親子関係や養育力の向上をめざして援助する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	プリント配布する							
参 考 書	<p>「乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング」藤井裕子ほか、ふくろう出版、「子どもの発達と保育カウンセリング」次良丸睦子共著、金子書房、「保育相談支援」笠師千恵ほか著、中山書店</p>							
留 意 事 項	講義を中心とするが自ら課題意識をもって受講すること。実際の保育場面で役立つ内容でありノートにしっかり記録すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日15:00から17:00							

授 業 名		保育相談 a	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	(内 容) 保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 (必要な準備) 保育相談の基本的知識を知っておく	
第2回	保育士の特性と専門性を生かした支援	(内 容) 保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 (必要な準備) 保育所保育指針を確認しておく。	
第3回	子どもの最善の利益と福祉の視点	(内 容) 全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、社会福祉領域の専門職である保育士の視点について学ぶ。 (必要な準備) 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。	
第4回	子どもを中心とした喜びの共有	(内 容) 保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第5回	保護者の養育力とその支援	(内 容) 保護者自身の子育てに対する意識を学び、保護者の養育力とその向上を支援する保育士の役割について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第6回	信頼関係を基礎とした保育者との関係	(内 容) 対人支援の基本的態度である傾聴、共感、受容について、また、資料をもとに「バイステックの7原則」について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第7回	地域の社会資源と関係機関との連携	(内 容) 地域に存在する社会資源について解説し、関係機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第8回	「保育」にまつわる保育相談支援	(内 容) 「保育指導」の意味、保育所利用の保育者への相談支援、地域における子育て支援について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。	
第9回	保育相談の内容と支援(1) 基本的生活習慣に関する事	(内 容) 基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。	
第10回	保育相談の内容と支援(2) 言葉の遅れが見られる場合	(内 容) 言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第11回	保育相談の内容と支援(3) 子どもの気になる行動	(内 容) 子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第12回	保育相談の内容と支援(4) 保育中に生じた怪我や事故への対応	(内 容) 保育中のけがや事故の生じた原因とその予防保護者対応について学ぶ。安全への配慮を復習する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第13回	保護者支援における保育者の役割(1) 育児不安、育児ストレスの見られる保護者への理解と支援	(内 容) 養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第14回	保護者支援における保育者の役割(2) 知識や気づきの提供、特別な配慮が必要とされる場合の理解と支援	(内 容) 発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。	
第15回	保護者支援における保育者の役割(3) 虐待や放任が見られる場合の理解と支援、全体を通して振り返り	(内 容) 虐待や放任が見られる保護者への理解と助言、支援計画、関係機関のネットワークについて学ぶ。 (必要な準備) ノート、ファイルを持参し総復習を行う。	

授 業 名	保育相談 b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Consultation of Child care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	藤井 裕子・武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2yg~yl			
授業の概要	<p>1、幼児理解を深め保護者に適切な養育上の助言指導や支援が実践できるようになることをめざす。</p> <p>2、保育相談の意義や役割、内容について知識や方法を学ぶ。</p> <p>3、対人関係能力を身につけて保護者との良好な信頼関係を構築する。関係機関について概要を理解し連携や協働できることをめざす。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育相談の意義や役割を学び、保護者との良好な信頼関係を構築する。</p> <p>2) 保育に関する専門的知識、技術を背景に子どもの養育に関して適切な助言や支援が行うことができる。</p> <p>3) 親の育児不安や育児ストレスに対応し、安定した親子関係や養育力の向上をめざして援助する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力) ()
テ キ ス ト	プリント配布する							
参 考 書	<p>「乳幼児の発達臨床と保育カウンセリング」藤井裕子ほか、ふくろう出版、「子どもの発達と保育カウンセリング」次良丸睦子共著、金子書房、「保育相談支援」笠師千恵ほか著、中山書店</p>							
留 意 事 項	講義を中心とするが自ら課題意識をもって受講すること。実際の保育場面で役立つ内容でありノートにしっかり記録すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜日・火曜日 12時10分から13時まで。							

授 業 名		保育相談 b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	(内 容)	保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 (必要な準備) 保育相談の基本的知識を知っておく
第2回	保育士の特性と専門性を生かした支援	(内 容)	保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 (必要な準備) 保育所保育指針を確認しておく。
第3回	子どもの最善の利益と福祉の視点	(内 容)	全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、社会福祉領域の専門職である保育士の視点について学ぶ。 (必要な準備) 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。
第4回	子どもを中心とした喜びの共有	(内 容)	保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第5回	保護者の養育力とその支援	(内 容)	保護者自身の子育てに対する意識を学び、保護者の養育力とその向上を支援する保育士の役割について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第6回	信頼関係を基礎とした保育者との関係	(内 容)	対人支援の基本的態度である傾聴、共感、受容について、また、資料をもとに「バイステックの7原則」について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第7回	地域の社会資源と関係機関との連携	(内 容)	地域に存在する社会資源について解説し、関係機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第8回	「保育」にまつわる保育相談支援	(内 容)	「保育指導」の意味、保育所利用の保育者への相談支援、地域における子育て支援について学ぶ。 (必要な準備) 事前に配布する事例に目を通しておく。
第9回	保育相談の内容と支援(1) 基本的生活習慣に関すること	(内 容)	基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。
第10回	保育相談の内容と支援(2) 言葉の遅れが見られる場合	(内 容)	言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第11回	保育相談の内容と支援(3) 子どもの気になる行動	(内 容)	子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第12回	保育相談の内容と支援(4) 保育中に生じた怪我や事故への対応	(内 容)	保育中のけがや事故の生じた原因とその予防保護者対応について学ぶ。安全への配慮を復習する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第13回	保護者支援における保育者の役割(1) 育児不安、育児ストレスの見られる保護者への理解と支援	(内 容)	養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第14回	保護者支援における保育者の役割(2) 知識や気づきの提供、特別な配慮が必要とされる場合の理解と支援	(内 容)	発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 (必要な準備) 配布プリントから実際の例を考えておく。
第15回	保護者支援における保育者の役割(3) 虐待や放任が見られる場合の理解と支援、全体を通して振り返り	(内 容)	虐待や放任が見られる保護者への理解と助言、支援計画、関係機関のネットワークについて学ぶ。 (必要な準備) ノート、ファイルを持参し総復習を行う。

授業名	子どもの食と栄養a・b			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Children's Food and Nutrition			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	豊原 容子			対象学生	幼児教育2ya～yc、yd～yf			
授業の概要	<p>成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解できる。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得している。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	子どもの食と栄養演習第2版 小川雄二編著 建帛社							
参考書	資料を配布する。							
留意事項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	食の重要性	(内 容) 現代の食の現状と課題、食の特徴 (必要な準備) 自らの食生活を振り返っておく(30分)	
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容) 食べる機能に関わる子どもの発育・発達 (必要な準備) テキストのp53-60を読んでおくこと。(30分)	
第3回	三大栄養素について	(内 容) 糖質・たんぱく質・脂質の種類と機能 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp11-16を読んでおくこと。(60分)	
第4回	その他の栄養素、水について	(内 容) ビタミン、ミネラルの種類と機能、食物繊維、水の働き (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp16-22を読んでおくこと。(60分)	
第5回	からだのしくみと栄養	(内 容) 消化吸収のしくみ、食欲のしくみ (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp53-54,p60-70を読んでおくこと。(60分)	
第6回	一日の食事の考え方,バランスのとれた献立	(内 容) 食事摂取基準、食品の分類、食の安全、 献立について (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp22-40を読んでおくこと。(60分)	
第7回	乳児期の栄養 授乳の実際(実習を含む)	(内 容) 授乳の意義と乳汁の特徴 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp71-92を読んでおくこと。(60分)	
第8回	乳児期の栄養 離乳の実際(実習を含む)	(内 容) 離乳の意義と離乳食の進め方 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp92-114を読んでおくこと。(60分)	
第9回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp114-138を読んでおくこと。(60分)	
第10回	学童期の栄養	(内 容) 学童期の食生活の特徴と注意点 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp139-143を読んでおくこと。(60分)	
第11回	食育の基本と内容	(内 容) 食育について、保育所における食育の実際について (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp151-155を読んでおくこと。(60分)	
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容) 食育計画を考える (必要な準備) テキストのp156-164を読み、食育計画について考えておく。(60分)	
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容) 児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) 前回の復習を行う。テキストのp172-182を読んでおくこと。(60分)	
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー	(内 容) 食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストのp188-198を読んでおくこと。(60分)	
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病、障害のある子	(内 容) 体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) 前回の復習および課題を行う。テキストの183-187を読んでおくこと。(60分)	

授 業 名	子どもの食と栄養 c			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Children's Food and Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	幼児教育2yg~yi			
授業の概要	<p>成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を取得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を取得する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テ キ ス ト	子どもの食と栄養演習(第3版) 小川雄二編著 建帛社							
参 考 書	資料を配布する。							
留 意 事 項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養 c	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	食の重要性	(内 容)	現代の食の現状と課題、食の特徴 (必要な準備) 自らの食生活を振り返っておく
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容)	食べる機能に関わる子どもの発育・発達 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第3回	三大栄養素について	(内 容)	糖質・たんぱく質・脂質の種類と機能 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第4回	その他の栄養素、水について	(内 容)	ビタミン、ミネラルの種類と機能、食物繊維、水の働き (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第5回	からだのしくみと栄養	(内 容)	消化吸収のしくみ、食欲のしくみ (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第6回	一日の食事の考え方	(内 容)	食事摂取基準、食品の分類、食の安全について (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第7回	バランスのとれた献立	(内 容)	献立のたて方、おいしさに関わる因子について (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第8回	乳児期の栄養 授乳の実際(実習を含む)	(内 容)	授乳の意義と乳汁の特徴 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第9回	乳児期の栄養 離乳の実際(実習を含む)	(内 容)	離乳の意義と離乳食の進め方 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第10回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容)	幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第11回	食育の基本と内容	(内 容)	食育とは、保育所における食育 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容)	食育計画を考える (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容)	児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー	(内 容)	食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	(内 容)	体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) テキストの関係部分を読んでおくこと。

授 業 名	子どもの食と栄養 d			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Children's Food and Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	猿渡 綾子			対 象 学 生	幼児教育2yj～yl			
授業の概要	<p>成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体をつくるだけでなく生活リズムの形成や健全な心を育むためにも、さらに将来の健康の基礎を築くうえでも大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、今の子どもたちが抱える食の問題点などについて学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を取得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を取得する。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テ キ ス ト	最新子どもの食と栄養第8版第3刷 飯塚美和子編集 学建書院							
参 考 書	資料を配布する。							
留 意 事 項	実際の保育における食の問題点を見つけ、改善していくことを考える姿勢をもって受講してもらいたい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養 d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	子どもの健康と食生活の意義	(内 容)	子どもの食生活の特徴と現状 世界の子どもの現状 (必要な準備) 教科書P2～10を事前に読んでおく(30分)
第2回	子どもの発育・発達と食生活	(内 容)	子どもの発育・発達の特徴 栄養状態の評価 (必要な準備) 教科書P66～76を事前に読んでおく(30分)
第3回	栄養に関する基本的知識(炭水化物・たんぱく質・脂質)	(内 容)	糖質・たんぱく質・脂質の栄養学的特徴と消化・吸収について 食物繊維の役割について (必要な準備) 教科書P16～33、46～50を事前に読んでおく(60分)
第4回	栄養に関する基本的知識(ビタミン)	(内 容)	脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類と機能について (必要な準備) 教科書P38～43を事前に読んでおく(30分)
第5回	栄養に関する基本的知識(ミネラル、水)	(内 容)	ミネラルの種類と機能について 水の種類と機能について (必要な準備) 教科書P34～38、43～45を事前に読んでおく(30分)
第6回	子どもの食生活(演習を含む)	(内 容)	食生活指針、食事摂取基準、食品の分類、食事バランスガイドについて 献立作成 (必要な準備) 教科書P51～64を事前に読んでおく(30分)
第7回	胎児期(妊娠期)の栄養	(内 容)	胎児期の栄養の意義と食生活 妊産婦のための食生活指針 (必要な準備) 食事バランスガイド(3日分)を記入してくる 教科書P77～87を事前に読んでおく(60分)
第8回	乳児期の栄養:乳汁(実習を含む)	(内 容)	乳汁栄養(母乳、人工乳、混合栄養)の特徴と意義 調製粉乳の種類と調乳 (必要な準備) 教科書P88～109を事前に読んでおく(30分)
第9回	乳児期の栄養:離乳(実習を含む)	(内 容)	離乳の意義と離乳食の進め方 授乳・離乳の支援ガイド (必要な準備) スプーン、タオル(小)を持参すること 教科書P110～119を事前に読んでおく(30分)
第10回	幼児期の栄養(実習を含む)	(内 容)	幼児期の食生活の特徴と食事の援助 (必要な準備) 教科書P122～135を事前に読んでおく(30分)
第11回	食育の基本と内容	(内 容)	食育基本法、食育推進計画 食育の内容、計画、および評価 (必要な準備) 教科書P168～180を事前に読んでおく(30分)
第12回	食育の実際(実習を含む)	(内 容)	食育計画を考える 食育の体験 食に関するお便りの作成 (必要な準備) 前回の講義を踏まえ、食に関するお便りを作成するためのプランを考えておく。必要な資料、筆記具等があれば持参する。(30分)
第13回	児童福祉施設における食と栄養	(内 容)	児童福祉施設における食生活の現状と課題 (必要な準備) 前回の講義の課題を完成させ提出する 教科書P187～204を事前に読んでおく(30分)
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1 (食物アレルギー)	(内 容)	食物アレルギーの発症機序と対応 (必要な準備) 教科書P215～221を事前に読んでおく(30分)
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 2 まとめ	(内 容)	体調不良、疾病の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応 (必要な準備) 教科書P206～215、221～230を事前に読んでおく(30分)

授業名	精神保健			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Mental Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	乳幼児期から高齢期まで各年代における心の健康について学ぶ。各年代別に見られる基本的な心理的特徴を理解する。その上で心理的な問題がどのように生じるかについて、主な問題の発生機序について学ぶ。心理的問題への対応や予防についても学び、精神保健の重要性について理解する。精神的な健康を維持するための方策についても考察する。							
学習成果到達目標	1) 保育者に必要な精神保健の基本的知識を習得する。 2) 心理的問題の予防について学び、メンタルヘルスの重要性を認識できる。 3) 心身の健康的な行動を増進する方法について説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない							
参考書	適宜プリントを配布する。							
留意事項	できるだけ事例を提示するので、自分に引き寄せて学んでほしい。 日頃から、内容を理解し、メンタルヘルスの基本知識を習得し、活用できるようにしておく。 授業は、学生の興味・関心に柔軟に対応する場合があるので、内容の順番を説明の上変更することがある。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		精神保健	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目及び授業計画のガイダンス	(内 容) 精神保健の概要・授業の進め方 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)	
第2回	精神保健の歴史、精神保健の意義	(内 容) わが国の精神保健の流れと課題、こころの健康への基本的知識と理解 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)	
第3回	E・H・エリクソンの理論の紹介 年代別のライフサイクル	(内 容) エリクソンのライフサイクル理論の紹介と年代別の心理的特徴を把握する。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく(10分)	
第4回	乳幼児期のメンタルヘルス	(内 容) 乳幼児の愛着形成の問題、情緒や行動上の問題を学び早期の関係性の重要性を理解する。 (必要な準備) 実習で経験した事例を書いてくる。(30分)	
第5回	学童期のメンタルヘルス	(内 容) 学童期の感情や社会性の育ちを理解し学童期のウエルビーイングのあり方を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(10分)	
第6回	思春期・青年期のメンタルヘルス	(内 容) 思春期の特徴と危機、アイデンティティの問題について理解を深める。青年期特有の対人不安を知りメンタルヘルスを保つ方策を知る。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(10分)	
第7回	成人期のメンタルヘルス	(内 容) 中年期に多いうつ病とその予防、うつ病への対応、バーンアウト等を学び問題解決を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(20分)	
第8回	老年期のメンタルヘルス	(内 容) 加齢による心理的变化や対象喪失について理解し老年期のウエルビーイングのあり方を考える。 (必要な準備) 配布プリントを読んでおく。(20分)	
第9回	ストレスとその対応	(内 容) ストレスの概念的定義、ストレス対応について学ぶ。 (必要な準備) 自分の生活をふりかえりストレス対応への力を考える。(30分)	
第10回	脳科学から見たメンタルヘルス	(内 容) 脳と心と体との関係を学び脳の働きを理解する。脳の各部位の働きと心への影響について基本的知識を得る。 (必要な準備) 配布プリントを読み脳科学への理解を深める。(30分)	
第11回	食に関する問題とメンタルヘルス	(内 容) 過食、拒食など摂食障害と発症の要因、支援について学ぶ。 (必要な準備) 健康的な食生活について考えてくる。(20分)	
第12回	社会人基礎力の育成	(内 容) 社会人基礎力について知り意識的に育み、ストレスへの対応力や人間関係力を自ら育成する。 (必要な準備) 自分の生活をふりかえる。(20分)	
第13回	対人援助職に見るメンタルヘルス	(内 容) 対人援助職におけるメンタルヘルスを考え、バーンアウトを避ける手立てを習得する。 (必要な準備) 新聞などで情報を切り抜きしてくる。(30分)	
第14回	対象喪失の問題	(内 容) ト라우マやPTSDについて理解し、支援の方策を学ぶ。 (必要な準備) 新聞などで情報を切り抜きしてくる。(30分)	
第15回	これまでの振り返りおよび今後の課題を見出す	(内 容) 質疑応答などで、これまでの振り返りをして、要点を整理する。 (必要な準備) プリント等を読み返しておく。(60分)	

授 業 名	音楽 a・b・c・d・e・f・g・ h・i・j・k・l	開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位			
英 文 名	Music	開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択			
担 当 者	小川 隆昭・後藤 由美子・服部 さやか・水谷 佳代子	対 象 学 生	幼児教育2回生					
授業の概要	幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どもの歌」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 「こどものうた」のレパートリーを拓げる。 2) 初見・伴奏付けの力をつける。 3) 人前で弾く、歌うことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即、役立つ技術を養う。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的演奏能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (初見力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	積極的に練習し、実習や幼・保の就職試験を目指して、弾き歌いの出来る曲を増やすことが大事。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。							

授 業 名	音楽 a・b・c・d・e・f・g・ h・i・j・k・l	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス、初見・歌唱	(内 容) 春学期授業計画・注意事項・初見 歌唱 (必要な準備) 「子どものうた」のテキスト
第2回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) 多くの幼稚園で歌われている「こどものうた」などの伴奏 初見 歌唱、コードネーム説明 伴奏付け基本練習 (必要な準備) 「子どものうた」の練習(60分)
第3回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) (幼稚園実習準備)継続、初見 歌唱、伴奏付け基本練習 (必要な準備) 継続(60分)
第4回	教育実習(幼稚園実習)準備、初見・歌唱、 コードネーム・伴奏付け	(内 容) (幼稚園実習準備)継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 (必要な準備) 継続(60分)
第5回	春学期前半のまとめ、初見・歌唱	(内 容) 初見・歌唱、個人チェック曲練習 (必要な準備) 継続(120分)
第6回	第1回個人チェック 歌唱指導	(内 容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック、 歌唱指導の模範 (必要な準備) 継続(60分)
第7回	歌唱指導	(内 容) 歌唱指導を一人ずつ行う (必要な準備) 継続、 ペープサート等準備、指導案作成(120分)
第8回	歌唱指導	(内 容) 歌唱指導を一人ずつ行う (必要な準備) 継続 ペープサート等準備、指導案作成(120分)
第9回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第10回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第11回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第12回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (必要な準備) 継続(60分)
第13回	春学期後半のまとめ	(内 容) 初見 歌唱、伴奏付け (必要な準備) 継続(60分)
第14回	初見・伴奏付けテスト	(内 容) 幼・保就職で出題される曲を中心に (必要な準備) 伴奏付けの練習(60分)
第15回	第2回個人チェック	(内 容) グループ別に課題曲を一人ずつチェック (必要な準備) 個人チェックの課題曲の練習(120分)

授 業 名	音楽 a・b・c・d・e・f			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Music			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	小川 隆昭・後藤 由美子・服部 さやか・水谷 佳代子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即、対応する能力。又幼稚園・保育園に就職する場合は、現場で役立つ実践的な能力を養うと同時に「子どもの歌」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を養う。 2) 現場で役立つ実践的な能力を養う。 3) 豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (音楽的演奏能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (初見力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	幼・保の就職試験に対応するため、個人指導を増やし、時間外にもレッスンをする。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーも可。							

授 業 名		音楽 a・b・c・d・e・f	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業内容の説明、歌唱、初見 (必要な準備) 「子どものうた」のテキスト	
第2回	初見・伴奏付けテスト	(内 容) 就職試験のリハーサル (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第3回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第4回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第5回	第1回個人チェック	(内 容) 前半課題曲の小テスト (必要な準備) 個人チェック曲練習(60分)	
第6回	リズム変奏	(内 容) マーチ・スキップ・かけ足・ワルツに変奏 (必要な準備)	
第7回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第8回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第9回	初見・伴奏付け補充練習	(内 容) 歌唱・初見伴奏付け (必要な準備) 初見、伴奏の練習(60分)	
第10回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第11回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第12回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第13回	合奏	(内 容) クリスマス曲合奏 (必要な準備) 自分のパートの楽譜を読む(30分)	
第14回	合奏	(内 容) 合奏指導法 (必要な準備) 指揮の練習をしておく(15分)	
第15回	第2回個人チェック	(内 容) 後半課題曲の小テスト (必要な準備) 個人チェック曲の練習(120分)	

授 業 名	ピアノ実技(個人指導) a・b・c・d			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Piano (Private Lesson)			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・高科 絵美代			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	ブルグミュラーからソナチネ初級レベルの学生を対象に、1回生で修得した読譜力・ピアノ演奏能力を更に向上させる。幼稚園・保育所の就職試験及び卒業後の現場で役立つピアノの演奏力を身につける。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1)ブルグミュラー・ソナチネを1曲でも多く弾くことができるようになる。 2)楽譜を正確に読むことができる。 3)ピアノの演奏技術を高めることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (演奏技術)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (詳細な読譜力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	ブルグミュラー・ソナチネ等, 受講生個々の進度に合わせて, 随時指定する。							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	履修条件: 学外でレッスンを受けていない 幼稚園・保育所に就職希望している ブルグミュラー・ソナチネ初級レベル							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)高科(担当授業終了後に実施) * 高科のレッスンを受ける学生は, 坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。							

授 業 名	ピアノ実技(個人指導) a・b・c・d	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) レッスン曲決定 (必要な準備) ・1回生の最後にレッスンを受けた曲の入っている楽譜集(ブルグミュラーもしくはソナチネ)を持参する。 ・1回生の最後にレッスンを受けた曲がブルグミュラー15番の場合は、ソナチネを持参することが望ましい。
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ)	(内 容) 教員より指定された曲の個人レッスン (必要な準備) 各自教員より指定されたレッスン曲の練習(1日20分～30分以上)

授 業 名	ピアノ実技（個人指導） a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Piano (Private Lesson)			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・高科 絵美代			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	幼稚園・保育所の就職試験に対応できるピアノ技術を身につける。教則本だけでなく、初見や弾き歌いなど、随時受験する園に応じた曲を練習する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタなど、個々の進度に応じた曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 読譜力及びピアノの演奏技術をさらに高めることができる。 3) 幼稚園・保育所の就職試験に必要な、弾き歌いの技術・初見演奏能力を身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (初見力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (演奏能力)	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等、受講生個々の進度に合わせて、随時指定する。							
参 考 書	使用しない							
留 意 事 項	幼稚園・保育所の就職試験という緊張する場でも、ある程度の実力を発揮できるよう、普段からしっかり練習をして、余裕を持って弾けるようにする。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）高科（担当授業終了後に実施 坂口のオフィスパワーも利用してよい）							

授業名	ピアノ実技（個人指導） a・b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内 容） レッスン曲決定 （必要な準備） ・最後にレッスンを受けた曲の入った楽譜集（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）を持参する。最後にレッスンを受けた曲がブルグミュラー15番の場合は、ソナチネを持参することが望ましい。 ・幼稚園・保育所の就職試験の受験曲がある場合は持参する。
第2回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第3回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第4回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第5回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第6回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第7回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第8回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第9回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第10回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第11回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第12回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第13回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第14回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）
第15回	ピアノ個人レッスン（ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等）	（内 容） 教員より指定された曲，または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン （必要な準備） 各自教員より指定されたレッスン曲の練習（1日20分～30分以上）

授業名	国語 a・b			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Japanese			開講時期	春・秋学期	必修・選択	選択	
担当者	土井 哲治			対象学生	幼児教育2ya～yf・yg～yl			
授業の概要	言葉とはどのようなものであるか、日本語とはどのような言語であるか、この二つを十分理解してもらい、教育に必要な国語能力を洗練する。併せて、昔話への理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 国語について基本的な説明ができる。 2) 昔話について語ることができる。 3) 方言について基本的な知識を持ち、地元の方言につてある程度語ることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (真摯な取り組み姿勢	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	配布プリント							
参考書	なし							
留意事項	真摯な態度での受講を望む。							
オフィス アワー	月曜日午後12時から15時まで							

授 業 名		国語 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	導入	(内 容) 授業内容の概説 (必要な準備) シラバスを読んでくる。	
第2回	言葉とは・記号論	(内 容) 言葉と他の記号の違い (必要な準備) 言葉によるコミュニケーションについて考えてくる。	
第3回	「人」の読み方・訓読みと考察課題設定	(内 容) 単語の中の「人」の読み方 (必要な準備) 「人」の付く単語を書き出してくる。	
第4回	「人」の読み方・音読み	(内 容) グループ討議の後レポート作成 (必要な準備) 課題を取りまとめ考察してくる。	
第5回	方言・消えゆく方言と調査課題設定	(内 容) 消えゆく関西弁 (必要な準備) 祖父母等の方言を調査してくる。	
第6回	方言・我が家の場合	(内 容) 各自の地元の方言についてグループ討議 (必要な準備) 調査結果を整理してくる。	
第7回	方言・比較検討	(内 容) 調査結果の地域比較でレポート作成 (必要な準備) 前回討議からの考察をしてくる。	
第8回	五十音図	(内 容) 国語学の基本たる五十音図の講義 (必要な準備) 五十音の発音を表にしてくる。	
第9回	語源探求・事例と考察課題設定	(内 容) 語源について事例紹介と課題設定 (必要な準備) 指示された語を国語辞書で調べてくる。	
第10回	語源探求・考察結果のグループ別発表	(内 容) 調べた語源をグループで説明・共有 (必要な準備) 指示された語の語源を調査してくる。	
第11回	「浦島太郎」の歴史と昔話課題設定	(内 容) 浦島伝説の変遷の説明と昔話課題設定 (必要な準備) 巖谷小波について調べしてくる。	
第12回	地元の昔話の改作	(内 容) 昔話を今風に作り替える (必要な準備) 地元の昔話を選択してくる。	
第13回	絵本・絵巻	(内 容) 物語の享受方法と絵解き (必要な準備) 奈良絵本の画像を見てくる。	
第14回	昔話改作指導	(内 容) 改作個人指導 オフィスアワー併用 (必要な準備) 昔話を改作してくる。	
第15回	まとめ	(内 容) 総括と質疑応答 (必要な準備) 質問の用意	

授 業 名	リズム			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Rhythm			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	幼児教育2回生			
授業の概要	心も体も開放させ様々なリズムに合わせて体を動かし、リズムによって動く楽しさを体験する。子どもを生き生きさせる重要な活動である事を知る。創造性豊かな保育者として、子どもの発達に応じたリズムダンスの指導と援助が出来るように学習する。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの発育・発達を考えて、楽しいリズムダンスを子ども達に提供出来る指導者になる。 2) 自分でリズムダンスを創作できる能力を身に付ける。 3) リズムよく動ける体とイメージしたものを即興で表現できる体をつくる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	使用しない。							
参 考 書	「リズムと動き」エルザ・フィンドレイ著 (全音楽譜出版社)							
留 意 事 項	保育者として現場に立つ時のことを考えて、取り組んでもらいたい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		リズム	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	動ける体づくり(1)リズムに反応して動く	(内 容)	リズムに合わせて心と体を開放させて動く (必要な準備) ノートを作成(授業内容をまとめる)
第2回	動ける体づくり(2)速い曲に反応して動く	(内 容)	リズムエクササイズ(リズムの変化を体で感じる) (必要な準備) 前回の行った動きのリズムを思い出す
第3回	動きの変化	(内 容)	呼吸と動作について知る(呼吸の仕方できが変化することを体験する) (必要な準備) 復習をして身体反応をよくしておく。
第4回	リズム遊び(1)音符の体得	(内 容)	手や足で音符を表現する。発令された音符を素早く反応して身体で表現する。 (必要な準備) 呼吸と動きについて体験した動作の復習
第5回	リズム遊び(2)異なる音符の表現	(内 容)	いろんなリズムを体で感じ表現する (必要な準備) 前回の授業で行った復習をする
第6回	リズムパターンの体得	(内 容)	いろんなリズムパターンを行う 2人組でリズムパターンを行う(カノンで行う) (必要な準備) 前回のリズムパターンを体得しておく
第7回	音階とステップ	(内 容)	音階を体で表現しながら基本ステップを行う (必要な準備) 基本ステップの復習をしておく
第8回	子どものリズムエクササイズ	(内 容)	子どもが楽しむリズムエクササイズを行い動く。 (必要な準備) 動きを考えておく
第9回	子どものリズムエクササイズを作る	(内 容)	各自が考えた動きをつなげる 完成させる (必要な準備) 各自の動きを仕上げておく
第10回	リズムダンス	(内 容)	幼児のダンスを楽しく表現豊かに動いてみよう (必要な準備) 知っているダンスがあれば書き出しておく
第11回	創作	(内 容)	グループでリズムダンスを創作する (必要な準備) 曲をみつけて準備をしておく
第12回	創作	(内 容)	曲のリズムと動きがうまく合っているか考える (必要な準備) グループの人と話し合いをする
第13回	創作	(内 容)	リズムダンスの完成 気になるところの修正 (必要な準備) グループでまとめておく
第14回	発表	(内 容)	グループごと発表を行う 各自が評価する (必要な準備) 発表が出来るようにグループで作品の確認
第15回	まとめ	(内 容)	全体の授業の振り返り (必要な準備) 子どもの前で出来るダンスを用意しておく

授業名	子どもの造形			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Children's Art			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育2回生			
授業の概要	「図画工作 ・ 」 「保育内容・表現 」などで学んだ内容をもとに、子どもの造形活動や造形表現についてさらに深く理解し、実践的に指導支援できる力を身につける。							
学習成果到達目標	1) 技法、材料による多様な造形的表現について研究する。 2) 子どもの意欲や興味関心に寄り添うテーマと課題の設定について考える。 3) 子どもの個性や発達に即した指導法・支援の計画が立てられる力を養う。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (表現力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (表現力)	課題発見・解決能力			
テキスト	プリントを配布する							
参考書	図書館にあるものを活用する 花篤實・岡田敬吾 編著 『新造形表現 実技編』(三晃書房) 1回生春学期に購入したもの							
留意事項	内容等については受講生の人数、学生の求める学習成果によって変更することがある。							
オフィス アワー	登録学生の希望により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		子どもの造形	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 導入 (必要な準備) シラバスに目を通しておく(30分程度)	
第2回	技法研究・フィンガーペインティング	(内 容) フィンガーペインティングによる表現 (必要な準備) 指絵の具について復習しておく(30分程度)	
第3回	技法研究・フィンガーペインティング	(内 容) 市販の指絵の具と土粘土 (必要な準備) 何が指絵の具になるか考えておく(30分程度)	
第4回	技法研究・ローラーで遊ぶ	(内 容) ローラー遊びからの展開 (必要な準備) アイデアを考えておく(30分程度)	
第5回	材料研究・落ち葉を並べる	(内 容) 落ち葉や自然素材による表現 (必要な準備) つくりたい形を考えておく(30分程度)	
第6回	材料研究・落ち葉を並べる	(内 容) 自然素材による造形 (必要な準備) 季節感とテーマの設定について考える(30分程度)	
第7回	指導法研究・食べ物をテーマにした制作	(内 容) 食物サンプルについて学ぶ (必要な準備) つくりたい食べ物について調べておく(30分程度)	
第8回	指導法研究・食べ物をテーマにした制作	(内 容) 食物サンプルの彩色 (必要な準備) 彩色できるように作品を完成させて行く	
第9回	材料研究・紙コップ、紙皿による造形	(内 容) テーマの設定(動く、飾る、変身) (必要な準備) 紙コップと紙皿を準備しておく(30分程度)	
第10回	材料研究・紙コップ、紙皿による造形	(内 容) リサイクル素材について学ぶ (必要な準備) アイデアを練っておく(30分程度)	
第11回	材料研究・ストローをつかった造形	(内 容) ストローによる動くおもちゃ (必要な準備) 動くおもちゃについて調べておく(30分程度)	
第12回	頭足人を描く	(内 容) 描画の発達段階の理解 (必要な準備) 配布資料を読む(30分程度)	
第13回	レントゲン画を描く	(内 容) レントゲン画の理解 (必要な準備) 配布資料を読んでおく(30分程度)	
第14回	造形のための環境について	(内 容) 素材、道具の管理について学ぶ (必要な準備) 物的環境の整備について考えておく(30分程度)	
第15回	まとめ・記録のファイリング	(内 容) 授業全体の総括 (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく(30分程度)	